

林董譯

火教大意

明治十六年

九月出版

千河岸氏藏版

火教大意目次

第一章

ペルセポリスノゼルシス王宮ノ遺

趾 第一葉

第二章

希臘人ガゾーロストルノ説及ヒプ

リユタークガ火教ノ辨 第七葉

第三章

アンケテルチユペロシ氏ノ事及ヒ

同氏カゼンド、アベスタノ發明 第十

第四章

ゾーロストルノ年時 第十六葉

第五章

ゾーロストル及ヒ其宗教ノ精神 第二

十葉



火教大意目次

第一章

ペルセポリスノゼルシス王宮ノ遺趾 第一葉

第二章

希臘人ガゾーロストルノ説及ヒプリユタークガ火教ノ辨 第七葉

第三章

アンケテルチユペロン氏ノ事及ヒ同氏カゼンド、アベスタノ發明 第十葉

第四章

ゾーロストルノ年時 第十六葉

第五章

ゾーロストル及ヒ其宗教ノ精神 第二葉

火教大意

目次

二可七六版反

第六章 ゼンドアベスタノ性質 第三十一葉

第七章 バンデヘツシノ時代ニ火教ノ成備

セシ事 第三十八葉

第八章 ゼンドアヘスタノ宗旨ト吠陀ノ宗

旨トノ關係 第五十二葉

第九章 ゼンドアベスタハ一神教カ將夕純

然タルジュアリスムナル乎 第五十六葉

第十章 火教ト耶蘇教トノ關係 第五十七葉

火教大意卷上

林 董 口譯

干河岸貫一筆記

第一章

ペルセポリスノゼルシス王宮ノ遺趾

波斯國ノ東南部ニフハルジスタント名ル一部

アリ即チ上古ノ波斯ナリ郡中スチラスノ地夕

ル四面皆山ニシテ土地沃饒ニ風景絶佳ナリ若

夫春夏ノ交ヒ紅芳地ニ敷キ薰郁空ニ満チ花舞

ヒ鳥謳ヒ風聲水音ニ至ルマテ一トシテ人ノ耳

目ヲ悦ハシメサルハナニ滿野ノ禾麥ハ五月ノ
末ニ於テ豐熟シ葡萄杏桃ノ菓實ノ如キ歐羅巴
ニ比スレハ頗ル甘美ナリ該國ノ徽章タル薔薇
ハ大サ樹木ニ均クシテ花ノ盛リニ發クトキハ
枝條ヲ壓倒スルニ至ル

此ノ地ノ如此天然ニ美景ヲ備ヘタルト女兒ノ
佳麗ナルトヲ以テ東洋ニ有名ナル詩人ハヒス
トサーダーガ才藻ヲ誘起セシ者ト思ハル

此山間ノ一端スチラスヨリ西北三十里ヲ距テ
テ巉然タル半月形ノ地アリ而テ一高邱アルヲ

見ル其邱ヤ山側ノ巖石ヲ削斷シテ作ル平地ヨ
リ高キヲ五十尺ニ至ル處々大理石ヲ以テ積疊
セルアリ其長サ十尺ヨリ廿尺ニ至ル其築造ノ
太ク緻密ナル殆ト石ヲ接合セシ所ヲモ辨シ易
スカラヌ程ナリ邱ノ廣袤ハ縱千四百尺横九百
尺アリ四面ヲ以テ天ノ四方ニ配セリ邱ノ正面
ニハ大理石ノ磴道アリ廣サ騎ヲ並ヘテ躋ボル
ベシ磴道ノ直下兩側ニ同ク大理石ニテ雕刻セ
ル大像ノ立テルアリ恰モ哨兵ノ牙門ヲ衛ルカ
如シ像ノ額上ニ一角アリヘーレンハ以爲ク是

コニマロムノ形チナリト像ノ四肢五官ノ様ニ
 至テハ巧ミニ鑿刀ヲ揮ヒ筋骨體格ノ真ニ迫ル
 一ハ當時有名ナル希臘ノ雕工ニ讓ラス口ヘル
 ト、ポートルハ以爲ク是マ^{グキ}ジアン宗ノ神牛ノ形
 チナルヘシト去レハ其容貌ノ人ニ肖テ嚴肅ナ
 ル風情ハ蓋シ人カニ及ハサル者ノ形チヲ表示
 セシ者ナラン歟此像ハ數百年間空ク茲ニ宿衛
 セシ者ニシテ此ヲ過キテ磴道ヲ登リ邱上ニ達
 ス茲ニ大石柱ノ遺存セルアリ空ヲ凌イテ林立
 ス其雕刻ノ精巧ナル鏤飾ノ美好ナルハ今時有

名ノ建築家ト雖氏模擬スル一能ハサル所ナリ
 ト云フ柱ノ高サ五十尺或ハ六十尺ニシテ周圍
 十二尺ヨリ十五尺ニ至ル昔シ此處ニ屋宇アリ
 シ時ニハ南亞細亞ノ人ハ多ク茲ニ来テ炎暑ヲ
 避ケシト云フ又磴道ノ兩傍ナル古壁ニ種々ノ
 像ヲ雕鏤セリ宛モ人ノ階ヲ登ルトキハ像モ亦
 伴テ登ルカト恠シマル像ニ武人アリ文官アリ
 囚虜アリ外邦人アリ中ニ於テ最モ著ルシク見
 ユルハ亞非理加ヨリ来レル莫崙奴ノ形チナリ
 又文章ヲ雕刻セル者多シ而シテ其文字ハ三十

鏝ノ如ク楔ノ如キ字形ニテ古字中最モ古クシ
テ且ツ讀ミ難キ者ナレハ久シク歐洲ノ博士ヲ
苦惱ヤシメシカ遂ニ十九年紀耶蘇紀元一千ノ
知識ヲ以テ漸々之ヲ讀ミ得タリ今ノ古壁ニ題
セル文ヲクロテヘンドノ讀ミタルニ由レハ左
ノ如シ

大流士王、王中ノ王、ヒスタスプスノ子、世界ノ
主宰ノ嫡子、ゼムチツト

又他ノ文ニ曰ク

ゼルシス王、王中ノ王大流士王ノ子、世界ノ主

宰ノ嫡子

又近來日耳曼ノ東洋學者ベンヒーノ讀ミタル
文ハ左ノ如シ

オーラマスタ即チ光明ノ王ト云ハル義ニシ
テ火教ノ神ナルホルマツヅノ
トハ威カアル神ナリ天地人ヲ造成シテ人ニ
榮譽ヲ與ヘゼルシス王ヲシテ衆庶ノ主君タ
ラシメタリ我カゼルシス王王中ノ王世界ノ
主宰大流士王ノ子アキメニツト我此所及ヒ
他所ニ於テ爲シ得タル一切ノ事業ハ盡クア
ヒユラマスダノ恩惠ニ由ル

又他ノ所ニ左ノ文字ヲ題セリ

アータゼルニス王茲ニ命告ス我ハ此大業ヲ
建テタルヨリアヒユラマスダ及ヒミスラス
ニ向ヒ我及ヒ我カ建築セル基業ト我人民ト
ヲ保護センコトヲ禱請ス

是等ヲ以テ觀ルニ此所ハ即チ大流士ト其嗣王
ザルニス及ヒアータゼルニスノ宮殿ナルヘシ
其他他國ヲ略取シタル等ノ事ヲ此古壁ニ記載
セル者多シ去レハ當時波斯ノ威武強大ナル東
ハ印度西ハ叙利亞小亞細亞マテモ侵略セシ軍

役ノ中ニ就テ彼ノゼルニス百萬ノ軍ヲ起シテ
希臘ヲ打チマラソン及ヒテルモピリーニ於テ
赤軍ノ爲ニ敗ラレシ如キハ人口ニ膾炙シテ世
普ク知ル所ナリ古列モ或ハ此宮殿ニ坐シテ耶
路撒冷ノ神殿ヲ再興スル命令ヲ降セシヤモ知
ルヘカラス何トナレハ古列ハ波斯王國創業ノ
英主ナレハナリ舊約書ニ所謂ゼルニスノ子ナ
ルアハスヘルスカ書山ヨリ以士帖ヲ伴ヒ来リ
シト云モ又此所ナリシヤモ知ルヘカラス是則
チペルセボリスニシテ紀元前三百三十年ニ亞

歴山リキサン徳大王カ醉ニ乗シテ燒キ亡シタル宮趾ト
ハ知ラレタリ今ニ至テハ疊積セル大理石ト昔
日ノ榮華ノ名殘ノミソ留メケル
ヘーレン曰ク地ハ隔絶シ風俗ハ遷變シテ昔時
ノ人ノ榮華ヲ極メタル史傳モ既ニ世ニ存スル
者ナク書山スサ及ヒ巴比倫ノ如キハミナ其踪跡ヲ
モ失ヒシニ獨リ此石ノミハ數百年ヲ經テ茲ニ
遺存セリ其築造ノ宏壯ナルハ觀客ヲシテ心目
ヲ驚カサ、ルナク其古色ノ幽致ナルハ我輩ヲ
シテ覺ヘス崇敬ノ心ヲ起サシム況ヤ今日何程イカ

ノ建築術ヲ以テモ倣擬スル能ハサル柱石ト達
識ノ博士ニテモ讀ム可カラサル文字ト古壁ニ
彫刺シタル肖像ト磴下ニ對立セル獸像トハ共
ニ我輩ノ想像ヲ誘起シテ文獻徵ナキ數千歳ノ
古代ニ溯ラシム
チヲドロス、シクロス曰クペルセポリスノ山側
ニ波斯王ノ古陵アリ其棺廓ハ繩ヲ以テ吊下シ
懸崖ノ下ニ葬埋セリテシヤス曰クヒスタスプ
スノ子大流士ハ其生存中ニ於テ己レカ陵墓ヲ
崖下ニ造リ其老親ヲシテ繩ヲ攀チテ下タリ觀

セシメタルニ誤リテ轉墜シ空シク非命ノ死ヲ
 遂ケタリ此等ノ古蹟ハ宮趾ノ後面ノ山側ニ存
 セリ陵頭ニハ王ノ像ヲ彫刻シ其一ハ壇ノ前ニ
 在リマタ壇上ニハ大陽ニ模シタル球形アリ王
 ノ半身ヲ雕鏤シタル者アリ能ク陵頭ノ王像ト
 肖タリ又其他ニ羽翼アル獸ノグリヒシ驚頭ト
獅身ト
 鬪フ所ノ像ヲ彫リタル都テ此等ハ數百年間波
 斯ノ國教タリシイラニツキ宗ノ遺趾ナリ其宗
 旨ヲ繹ヌルニ宗祖ヲゾーロストルト云ヒ經典
 ラアベスタト云フ國王ハホルマツヅ火教ノ
本尊

從僕ト稱シ火ト大陽ヲ信仰ス即チ火ト大陽ヲ
 神トシ穢惡ナルグリツヒシニ抵敵スル者トス
 グリツヒシトハ即チアーマン魔鬼ノ名造レル
 所ノ獸ナリ即チ爰ニ羽翼アル獸ト鬪フ像ヲ作
 レルハ是ゾーロストル宗タルノ確證ナリ何ト
 ナレハアベスタニ説キ演ル所ニ由ルニ所造ノ
 萬物ハ其始メニ各々模型アリテ之レニヨリテ
 造リ生セルナリ即チホルマツヅノ巧思ニ由テ
 造出セシ者ニシテ其模型トハ萬物ノ精神是ナ
 リホルマツヅト雖トモ其生来スルヤ亦模型ニ

依レリト云故ニゾーロストルノ宗徒ハ此模型ナル者ヲ尊信ス此レベルセポリスノ波斯王ノ宮趾ヲ觀併セテ最モ古代ノジユアリスム(世間ハ陰陽善惡等ノ二物ヨリ成立スルコトヲ説ク所ノ宗教ヲ云フ)ハ茲ニ淵源セシ者ナルヲ知ルニ足ルゾーロストルノ宗教即チ是ナリ

第二章

希臘人カゾーロストルノ説及ヒプリユタ

一クカ火教ノ辨

彼火教ノ肇祖タルゾーロストルハ如何ナル人

ニシテ又何事ヲ爲セシ人ナルヤト參索スルニ紀元前四百年代ニプラトールカ彼ゾーロストルノ事ヲ記シ波斯ノ王カ其子ヲ教育スルコトヲ述ル條下ニ曰ク一人ノ侍讀ハ太子ニ教ルニオ^ルマツヅ^ルノ火教ノ子ナルゾーロストルノ道ヲ以テス其教ノ中ニハ衆多ノ神ヲ禮拜スルコトヲ含有セリト又グヨトロス、プリユタークフルニ及ヒ紀元後百年間ノ人ニハゾーロストルノ事ヲ記シタル人多クアリ就中ヘロド、スハプラトールノ時代ヨリ前ニマシナム(火教ノ法)ヲ説明

シ紀元前四百五十年即チ當時波斯ノ「マシ」火教
 ノ僧ノ用キタル祭式犠牲齋戒葬儀等都テ僧侶
 ノ行フ所ノ方法諸禮式ヲ詳説シタリ其記スル
 所ヲ見ルニ今猶ホ波斯或ハ印度ノ各處ニ遺存
 セル「バルシス」(即チ火宗)ノ人ノ行フ所ノ者ニ髣
 髴タリ今其記スル所ノ概略ヲ左ニ掲ケハ曰ク
 波斯人ハ神壇ヲ備ヘス殿堂ヲ建テズ神像ヲ作
 ラス唯山頂ニ於テ拜ス而シテ恒ネニ天ヲ崇ヒ
 日月地水火風等ニ獻スルニ牲犠ヲ以テス(此事
 ハヘロド、スノ書ノ第一卷一百三十一丁ニ出

ツ)又壇ヲモ立テス堂ヲモ設ケス「イベイ」シヨ
酒ヲ地ニ灌キテ「ヒレツ」内ヲ細割シテ絲
シ神ニ獻スルコトヒレツノ如クセシモノ麵
 包ヲモ用キス一人ノ僧嫩芽ノ上ニ於テ犠牲ヲ
 獻シ其前ニ蹲路シテ神ノ起本ヲ示ス所ノ詩ヲ
 諷誦スルノミ又彼宗徒ハ大ニ河ヲ尊敬シ決シ
 テ之ヲ瀆スコトヲ爲サス其死尸ヲ殮スルニ當
 テ之ヲ曝露シテ先ツ鳥獸ノ爲ニ其肉ヲ啜食セ
 ラレサレハ葬ラス而シテ蠟ヲ以テ尸ニ塗リ然
 ル後チ之ヲ地ニ瘞却スルヲ以テ俗トス又蝶螳
レ「プタイルス」蟲蛇ヲ殺スヲ以テ大ナル善業

ト信ス是亦ヘロド、スノ書ニ出タリト云フ
プリユターク所説ナルゾーロストル及ヒ其宗
教ノ辨明ハ太タ趣味アリ即チ左ニ其大要ヲ示
サン
或人ハ二個ノ神アルヲ信ス例ヘハ二人ノ工匠
カ相競フ如キ者ナリ其一ハ善良ナル物ヲ造成
スルコトニカヲ竭シ他ノ一ハ醜惡ナル物ヲ造
出スル事トス或人ハ善良ナル者ヲ「ゴツト」(神)ト
シ醜惡ナル者ヲ「デモン」(魔)ト云フゾーロストル
ト「マジ」ハトロイヂヤンノ時ヨリ五千年前ニ

此世ニ在リシ人ト云フ此ゾーロストルハ善神
ヲ名ケテ「オロマシ」ト云ヒ惡魔ヲ「アリマニ
ユ」ト云フ甲ハ萬事賢明ナルコトヲ爲ス之
ヲ光明ニ喩フ乙ハ愚惡ナルコトヲ爲ス之ヲ黑
闇ニ譬ヘタリ然ルニ更ニ「ミスラス」ト云者アリ
此甲乙ノ中間ニ立ツ故ニ波斯人ハ「ミスラス」ヲ
中保ト稱ス「ミスラス」ハ初メ善神ニ向テハ感謝
シテ供物ヲ獻シ惡魔ニ對シテハ敬シテ遠サク
ル爲メノ獻祭ヲ爲スコトヲ誨ヘタリ其故ハ彼
宗徒ハ「ホモニ」ト名クル植物ヲ舂キ而テ之ヲ

搏スルニ牲ト爲シタル狼ノ血ヲ以テシ「ブリユ
 ト」及ヒ黒闇ト呼ヒツ、日光ノ及ヒタルコト
 ナキ所ニ齋チ去テ之ヲ棄ツ其如此為ス所以ハ
 植物中ニテモ或種類ハ善神ニ屬シ或種類ハ魔
 ニ屬スル者ナリト信許スルヲ以テナリ今其一
 ニヲ云ハ、鶏犬ホ麟鳳ト云カハ善神ニ屬シ水居ノ動物ハ惡神ニ
 屬スト爲スカ如シ故ニ其惡神ニ屬スル動物ヲ
 殺スヲ以テ善業トス加之此宗徒ハ神ノ事ニ就
 テ奇々怪々ナル説ヲ為ス今又其例ヲ舉ケハ曰

ク「ホルマツヅ」ハ清キ光リノ中ヨリ現出シ「アリ
 マニユース」ハ昏黒中ヨリ出テ茲ニ於テ互ニ戰
 鬪ヲ為ス「ホルマツヅ」ハ最初ニ六個ノ神ヲ造レ
 リ其一ハ仁ノ神其二ハ信ノ神其三ハ義ノ神其
 四ハ智ノ神其五ハ富ノ神其六ハ善行ヨリ生ス
 ル逸樂ノ神ナリ「アリマニユース」モ亦之ニ匹敵
 スヘキ六個ノ惡神ヲ造クレリ爾後「ホルマツヅ」
 ハ其身ヲ三倍ノ長ケト變化シテ天ニ上昇セリ
 其高サハ大陽ヨリ高キコト恰モ地球ト大陽ト
 ノ距離ト同キホトノ處ニ至リ而テ空中ニ恒星

ヲ撰撮シ其際ニシリユス或ハ犬ト名クル星ヲ
 作り諸恒星ノ護リトナシ又爾後廿四个ノ神ヲ
 造リテ卵殻中ニ納レタリ然ルニアリマニユ一
 スノ造レル同數ノ惡神ハ又此美ナル卵殻ニ居
 住セリ之カ爲ニ世間ニ善惡ノ混合ヲ致スコト
 トナレリ然ルニ終末ノ時マサニ来ラントスル
 ニ及ヘハ此世界ニ永ク凶荒疾疫ヲ流傳セシメ
 タル所ノアリマニユ一スハ全ク殄滅セラレテ
 地ハ平坦トナリ人ハ長壽ヲ保チテ統一ノ社會
 ヲ爲シスヘテ幸福ヲ得テ各國人民ノ言語モ同

一トナリ了ルヘシト云フ然リト雖トモセラホ
 シホスハ曰クマジノ説ニ由レバ上ノ所謂善
 神惡魔カ三千年ニ一回ツ、互ニ征服セラレ而
 後三千年間互ニ鬪争シテ各造成シタル所ノ事
 業ヲ相毀損シ然ル後チアリマニユ一スハ終ニ
 善神ノ爲ニ敗ラレリ衆庶幸福ヲ得テ飲食ヲ須
 キサレトモ飢ルコト無ク人各最上至尊ノ地位
 ニ達シ得ヘシ而シテ此等ノ事ヲ生成シタル所
 ノ神ハ暫ク休息ス此時間ハ人ニ於テハ太夕永
 キカ如ク見ルヘケレトモ神ニ於テハ一瞬時間

ノ如シト如此説ヲ爲ス者ハ即チマジノ宗旨
ナリ我輩ハ今ノ波斯宗一是等ノ談ト髣髴スル
所ヲ考察セントス波斯ノ教ハ其原ゾーロスト
ルヨリ生セル者ナリ抑今ヲ距ルコト百年前ニ
至ルマテハ希臘亞刺伯或ハ波斯ノ書ニ載タル
コトヲ除クノ外ハ實ニ知ルコトヲ得サリシ者
ハ火教ノ宗致ナリキ然ルニ幸ニ若齡ナル佛人
ノ勉力ニ由テ世ノ火教ノ理由ヲ討索セント欲
スル人々ノ耳目ヲ一新洞開セリ故ニ今ゾーロ
ストルノ教旨ニ就テハ一層確實ナルコトヲ談

論スルコトヲ得ルノ時ニ逢ヘリ其事情ハ次章
ニ述ル所ヲ見ヨ

第三章

アンケテル、チユヘロン氏ノ事及ヒ同氏カ
ゼント、アヘスタノ發明

アンケテル、チユヘロンハ一千七百三十一年ニ
佛蘭西ノ巴黎ニ生レ幼キヨリ東洋學ヲ好ミ夙
トニ希臘亞刺伯波斯ノ國語ノ奧妙ヲ極メタ
リ其勉強羣ニ超タルヲ以テ早ク東洋學者ノ注
目スル所トナリ或日國王ノ書籍館ニ入り偶々

センドアヘスタノ一書ヲ得タリ之ヨリ印度ニ
 遊歴シテゾーロストルノ書ヲ考索シゼンドノ
 語及ヒ梵語ヲ學ヒ巴黎全府ニ讀得ル人無キ所
 ノセンドアヘスタヲ讀マント欲スル志ヲ起セ
 リ當時恰モ印度ニ航スル便船アルヲ聞キ友人
 ニ請托シテ一官貢ト爲ルヲ得而シテ印度ニ赴
 カント謀リシカトモ其事遂ニ成ラサリシヲ以
 テ止ムヲ得ス兵士トナリテ佛都ヲ發セント決
 心シケリ然レトモ人ニ語ラハ其志望ヲ妨礙セ
 ラル、事モアラシカト之ヲ包藏シ發途スル前

日ニ至ルマテモ他人ニ之レヲ告ケスマサニ故
 園ヲ辭シ去ラントスル期ニ臨ミテ其兄弟ヲ近
 ク招キ涙ヲ揮テ別離ヲ告ケシカハ各喫驚シ頗
 リニ此行ヲ諫メ止ムレトモ敢テ可カス決然手
 ヲ分チテ發程セリ而シテ其行李中ニハ唯希伯
 來ノ經典ト算術器械トモンタイギートシヤロ
 ンノ著セル書及ヒ一領ノ綿衣アリシノミ時ニ
 寒雨日ニ慘凄タルニ他ノ新募ノ兵士ト同シク
 旅行十日間多クノ辛苦ヲ經テ遠征發艦ノ港ニ
 著セリ然ルニ佛國政府ハ其志ノ學業ニ篤ク且

剛毅勉強ナルヲ感覺シ直チニ兵役ヲ解キテ
違暇ヲ與ヘ加之五百ルノ俸金ヲ給與シ
テ學費トナサシム佛蘭西ノ東印度會社ニテハ
之カ爲ニ乗船ノ賃金ヲ收メス一千七百五十五
年ノ二月七日ヲ以テ印度ニ向テ出帆セリ維時
家ニ廿四歳ナリキ印度ニ着セシ後二週年間ハ
英佛ノ交戦アリ又病ニ侵サレタルヲ以テ諸所
ニ旅行シ未タ學業ニ從事スルコトヲ得ス空シ
キ月日ヲ送りシカ或時印度ノ各部落ヲ巡回經
過シテヂユケルノ一ノ拜禮僧ノ象ニ騎リテ出

タル時人民膜拜シテ象ノ爲メニ踏ミ殺サル、
コト又ハエロラノ岩窟等ヲ見シコトアリ千七
百五十九年ニ及ヒテストラットニ赴キシニ此地
ハ波斯人ノ住スル所ナレハ此ニ留リテ學ハン
ト決心シ是ヨリ氏カ剛毅忍耐ナル性質ヲ以テ
黽勉刻苦シ此地ノ火宗ノ人ニ從テゼント語ヲ
學ヒアベスタノ書ヲ研究シ終ニ最モ價アル書
冊一百八十卷ヲ齎シ歐羅巴ニ歸リ一千七百七
十一年ニアベスタヲ翻譯シテ世ニ公ニセシハ
全ク氏カ非常ノ功績ト云ハサルヘカラス氏ハ

佛國革命ノ騷亂ノ時モ猶ホ生存シ書籍中ニ身ヲ埋没シテ只管東洋ノ學科ニ心思ヲ寄セシカ千八百〇五年ニ至テ歿セリサレハ此人ハ真理ヲ搜索スルカ為メニハ頗ル勇猛剛毅ニシテ心志ノ至テ善良ナル人ナリキ

「アベスタ」ヲ出版セシ後チ數年間歐羅巴ノ學士社會ニ於テ此書ノ正否如何ニ就テ異說紛紜タリシカ就中ウエリイム、ジヨンスハ此「アベスタ」ヲ以テ往古ゾーロストルノ著述シタル書ニハ非ストノ意見ヲ主張セリ然リト雖トモ當今有

名ナル學者ハミナ此書ヲ以テ正シキ物ト為セリ既ニ千八百廿六年ニヘーレンノ著セル書中ニ曰ク何等ノ書ニテモ此書ノ如ク人ノ論評スル所トナリタル書ナシ又何等ノ古物ニテモ此ゼントアベスタノ如ク審査ヲ被リタル者ハアラズ然ルニ其論評ハ却テ此書ノ爲ニ「ベンジダツト」名篇及ヒ「イセシナ」同上ノ正シキ文章ナルコトヲ證明セリ又之ニ由テ「ゼンドアベスタ」ノ書ハ全篇純粹ナル者ナルコトヲ世人ノ確知スル所トナレリロート曰是等ノ書籍ハ上古ゾーロス

トルノ筆セル者ナルコトハ聊カモ疑ヲ容レス
之カ内面ヨリ見ルモ外部ヨリ視ルモ極メテ古
キ徴効ヲ具ヘタリ無學ノ人ト偏見ナル者ニ非
ルヨリハ決シテ此書ノ正否ヲ疑惑セスト

第四章

ゾーロストルノ年時

ゼンドアベスタト題セル書籍著述ノ時代トゾ
ーロストルノ生存セシ年時トニ就テ種々ノ異
説アリプラトーハゾーロストルノ道ハオルマ
ンヤムト稱セシ故ニ西以蘭ニ行ハレタル宗教

ナリト謂ヘリ然リ而シテアベスタハバクトリ
ヤ或ハ東以蘭ニ於テ始メテ見ハル、者ノ如シ
之ヲ以テ觀レハゾーロストルノ時代ハ耶蘇紀
元前少キモ六七百年ニ當ルアベスタノ書ノ著
述セル時代ニハバクトリヤハ獨立ノ王國ニシ
テゾーロストルハヒスタスプス王ノ世ニ在テ
其道ヲ教ヘタリト云フ然ルニ亞述ガバクトリ
ヤヲ亡ホシテ其地ヲ畧取セシハ紀元前二百年
ノ事ナリ是即チイラニツキ王國ノ滅亡ナリ故
ニゾーロストルハ此時ヨリ前ニ在リシ人トス

レハ紀元前千三百年或ハ千二百年代ノ人ナリ
此ヨリ詳細ナルコトヲ知ラント欲スルハ難シ
ボンセン曰クゾーロストルノ時代ノ事ニ就テ
アリストートルノ論定セシ者ニ於テハ其理無
キニ非スアリストートルトユートキソストプ
リニ一ノ説ニ從ヘハゾーロストルハプラト
ノ死スル時ヨリ六千年ノ前ニ生存セル人ナリ
ト云ヒヘルミポスハ突來ノ戰ノ五千年即チ紀
元前六千三百年或ハ六千二百五十年前トス然
ルニ今ヨリシテ見レハ如此時代ノ古キ者トス

ルコトハ孰カ是ニシテ孰カ非ナルヤヲ知ラス
以上(ゼノホンノ語)スビーゲルノ書ニ曰クソト
ロストルハ亞伯拉罕ト同時ノ人ニシテ相隣ツ
テ住セリ故ニ紀元前千二百年ニ世ニ在リシ人
ナリトニーヘブンノヒツトネーハゾーロスト
ルノ時代ハ紀元前千年トス且ツ曰ク波斯國王
ササミツト第一世已前ナル波斯ノ歴史ハ古キ
ニ過ルヲ以テ之ヲ考索スルハ無益ナリト又ド
リンゲルハ以爲クゾーロストルハ摩西ヨリ僅
カニ後レタル時代凡ソ紀元前千三百年代ノ人

ナルヘシ然レトモ確然ト之ヲ定ムルコトヲ得
 ストローリンソンハ曰クベロソスハゾーロス
 トルハ紀元前二千二百三十四年前ノ人ナリト
 謂ヘリトホーグハ「アベスタ」中ノ最モ古キカタ
 スノ詩ヲ摩西ノ時ナリト以謂ヘリラツプハ漸
 クニ古代ノ書籍ヲ考ヘテゾーロストルハ紀元
 前千二三百年代ノ人ナリト云ヘリ是ハドング
 ルノ説ト同シ此ハ希臘ノ著述家ノ最モ古キ者
 ノゾーロストルノ時代ト定メタルト大差ナシ
 希臘ノ著述家トハ大流王ト同時代ナルゼルシ

スノザントスヲ指ス又紀元後二百年代ニセハ
 リオント云フ三個ノ殊別ナル根元ニ由テ定タ
 ル時代モ大ニ殊ナル所ナシ我々ゾーロストル
 ノ時代ヲ定ムルニハ上臚列スル所ノ外ニ據テ
 以テ證徴トスヘキ者ナシ唯其時代ノ確知スヘ
 カラサルコト如此ナルノミナラスゾーロス
 ルハ何ノ地ニ住セシヤ生涯ノ事業ハ如何ナリ
 シヤヲモ確知シ得ヘカラス概子世ノ著述家ノ
 言フ所ニ由レハゾーロストルハバクトリヤニ
 住セシ人ナリトスポーグハ「ゼンド」ノ書中ノ語

ハバクトリヤ語ナリト云フアンケテル、チユハ
ロンノ譯セル「ザルトシツトナマ」ト題セルゾ
一ロストルノ紀傳ニ由レハゾーロストルハ三
十歳ノ時必彌ニ赴キ二十年間沙漠ノ中ニ住シ
而シテ十年間異蹟ヲ示シ且ツ理學ヲ巴比倫ノ
人民ニ教ヘ又ピタゴラス希臘ニ於テ有名ヲ己
レカ徒弟トシタリト然レトモ此書ハ「ミソロジ
」神代ノニ似タル者ニシテゾーロストルハ大
流士王ノ時代ニ世ニ在リシ人ナリト云コトヲ
本トシテ造レル者ナリマキスモルラルノ説ニ

ハ「アペスタ」ノ語ハ大流士王宮ノ老壁ニ彫刺セ
ル文字ニ比スレハ其語タル未タ幼穉ノ態ヲ帶
ル者多シ如釋ハ文法等未定ラス未思フニ其間
數百年ヲ閱歷ヤシ者ナルヘシト此彫刺セル語
ハアキメニヤンノ方言ニシテゼント語ノ轉訛
シタル者ナリ

第五章

ゾーロストル及ヒ其宗教ノ精神

思フニゾーロストルハ定メテヒタゴラストモ
亞伯拉罕トモ相接シタルコト無カルヘシ且ツ

其人ノ生涯ノ事ニ就テハ何事モ知ルコト能ハ
 スト雖トモゾーロストルト云ヘル人ノ世ニ在
 リシコトハ疑ヲ容レズ彼人ハ廣漠ナル土壤ト
 種々ノ人種ト久キ星霜トノ際ニ其優邁ナル知
 識ノ名譽ノミヲ留メタリ彼ノ人終世ノ事業如
 何ナリシカヲ知ラス
 ト雖モ其優邁ナル知識アリシ名譽ハ萬年ノ今
 日ニ至ルマテモ尚ホ數多ノ國土億萬ノ人民ノ
 中ニ留マリタリト云意ナリ其宗教ノ眼目ノ道德ニ在ルコト
 ハ佛陀教ト一般ニシテ此二教ハ共ニ世ノ道德
 ノ爲メ人民ノ自由ノ爲メ世界ノ進歩ノ爲メニ
 印度ノ古教ニ拮抗シテ獨立セシ者ナリ去レハ

佛教ト火教トヲ對較スレハゾーロストルハ恒
 久不易ニ是非善惡ヲ剖判區分スルコトヲ基礎
 トシテ其法ヲ建創セリ釋迦牟尼ハ自然ノ理ト
 其結果トヲ柱石トナス者ニテ所謂因縁果報法律ヲ立
 テ是非ヲ判スルコトヲ主義トセス故ニゾーロ
 ストルノ法ハ正理ヲ以テ主トシ釋迦ノ法ハ慈
 悲ヲ以テ本トス甲ハ最モ善キコトハ眞實勤勉
 正理ノ三ヨリ成立ツトシ乙ハ仁慈博愛ヲ以テ
 成立ツトスゾーロストルハプロビデンス(天理)
 即チ神ヲ説キ瞿曇悉達ハプロユデンス(知識)ヲ
 慮ノ義

説クゾーロストルハ神聖清淨ヲ以テ歸旨トシ
 佛陀ハ功德ヲ以テ目的トス火教ハ造化主宰ヲ
 説ク佛教ハ造化ヲ語ラスシテ唯自然ノ理即チ
 因縁合成ヲ説クニ教ノ差違如此再反スト雖ト
 モ其源ニ溯リテ推覈スレハ同一根抵ヨリ生シ
 タル者ナリ何トナレハ甲乙ニ教共ニ道德世界
 ノ改革者ニシテ近ク云ヘハ火教ハビシヨブ、ボ
 トラルノ法ニ類ヤル道德ヲ敷演シ乙ハア一夫
 ジーコン、パレーンノ法ニ似タル道德ヲ宣布ス
 ズーロストルハ諸ノ道德ハ恒久不易ナル理非

曲直ヲ剖判スルコトニ由テ成就シ人ノ精神中
 ニ其道德ノ根抵ヲ保有スル者トス所謂釋迦ハ
 善惡業種ノ因ヨリ殃福苦樂ノ果ヲ感スル者ニ
 シテ全ク精神外ノ物ノ中ニ道德ノ根抵アリト
 スゾーロストルノ教導ノ法ハ恒ニ惡ト抗戰マ
 ル者ナリト云佛陀ノ法ハ自己ノ心ヲ靜定シテ
 功德善行ヲ爲スコトヲ以テ世ヲ化益スルナリ
 此ニ教共ニ其眼目トスル所ノ道德ハ人ノ身ヨ
 リ生スル者ナリ剋實シテ云ヘハ人ハ主ニシテ
 物ヲ主トスルニハ非ス全クスピリチュアル精

神譯者曰 譯者曰 婆羅門ヲ宗トスル教ニハ概テ教祖アルヲ見ス神ヲ主トシテ 何人ヨリ始マリシト云フコトヲ見ス而シテ道德ヲ旨トスル教ハ概テ之ニ反シテハノ意ヨリ生シ必ス教祖アリ道德ヲ主トシテ 教祖是レ太夕奇ト謂フヘシ去レハ印度ノスチリスム婆羅門 波斯ノスヒスム埃及希臘 ステリニ プラトニスム中世耶蘇宗 ノミスチスムハ 正ク云ハハ肇祖ト云ヘキ者ナシ其他巴比倫亞述埃及希臘羅馬 宗等ノ道德ノ教無キ者ハ皆之ヲ造リタル人ナシ然シテ道德ノ宗教

ハ之ニ反シテ全ク人造ニ係ル故ニ釋迦孔仲尼ゾーロストル摩西馬哈 摩西マホ 馬哈マハ 等ノ如ク肇祖アリプロテスタントハ 天主教中ノ道德ノ部分ノミラ分取シテ獨立シタル者ナリ故ニプロテスタントニハルー ガルト云フ祖アリト雖トモ中世ノ天主教ニハ一人ノ祖師アルコト無シ

アベスタノ宗教ノ全體ハゾーロストル或ハ ギラトストラアベスタ 宗世ニ從フテ變遷スレトクガ ラトストラモ 皆ゾーロストルヲ 以テ其主ト作ゾーロストルノ 訛音ヲ 以テ中心トシテ其周圍ヲ回旋スル者ナリ其經書ノ最モ古キ部分ナ

ルヤスナノゴサスニハゾーロストルハ純然タルガラトストラニシテ言行思想共ニ善良ナル人ナリト稱歎セリガラトストラノミハオーラマスダノ教旨ヲ知テガラトストラノミ巧辨妙舌ナリシト云ハレタリゴサスノ首章ニ於テハガラトストラオルマツヅノカニ依テ廉潔ナル人ニ知識ヲ與フルコトヲ欲シ亦大ナル快樂ヲ與フルコトヲ望ムト記シタリ以上スピゲルノ譯又ホーグカ同クゴサスヲ譯セシニ曰ク我ハ偽言者ノ為ニ讎敵トナリ誠實ナル人ニハ輔

翼トナランコトヲ誓フガラトストラハ恒ネニ真誠ナランコトヲ祈願シ而シテ自ラ最モ眞實ナルコト世ニ比スヘキ者ナキオルマツヅノ僕ナリト云テ最モ善事ヲ行ヒ道ヲ知ルコトヲ願ヘリ以上

猶太ノ預言者ハ己カ命セラレタル使命ヲ辟クルコトヲ欲シ神ノ命令ヲ以テ重擔ト稱スルニ至リシモ止ムヲ得ス其精神ヲ焦勞シテ之ヲ行セシカ如クゾーロストルハ云フ我以為ク神ヲ禱ルコトノ為ニ神ハ我ニ道ヲ弘宣セヨ道ヲ弘宣スル

コトハ即チ神ヲ禱ルト命告セシトキニ神ノ道
ト同ナシ功德ナリト
ヲ世ニ弘宣スルコトハ太々困難ナリト
ゾーロストルハ惡事ヲ見聞スルトキハ其心ニ
鬱悶ヲ生セシ程ノ性質ノ人ニシテ其厭惡スル
所ハ外部ノ惡行ニ非スシテ精神ノ惡事ヲ忌避
セシナリ即チ邪念ヨリ生スル惡事ト恒ネニ善
良ナルコトヲ嫌忌スルノ惡心トヲ憎ミタルナ
リ去レハゾーロストルカ趣向スル所ニ由テ之
ヲ觀レハ凡ソ世界ノ苦惱ハ其本ヲ罪惡中ニ托
ス罪惡ノ本ハ魔界ニ於テ見出セララルヘキ者ト

ナセシナリゾーロストルノ主義ハ保羅カ我輩
ハ血肉トハ争ハスト云シト同一轍ナリ(即チ人
ノ精神ト戰フヲ云フ)即チ我人ノ争ヒハ人ト争
フニ非スシテ唯惡行ノ本源ト争フナリ黑闇ヲ
管理スル者ト争フナリ此レ世界ノ惡事ノ精神
ト争フナリトノ意想ヲ基トシテ立教開宗シタ
リ此ヲ以テヤ光明ト黑闇ノ際ニ大ナル戰鬥ア
ルコトヲ想像シテゾーロストルハ渾テ善人ヲ
勸誘シテ此善惡明闇ノ戰場ニ臨マシメ善人ヲ
助ケテ黑闇ナル惡魔ト戰ハシメント思ヘリ然

ルニ當時地球上ニ大ナル變動ヲ生セシコトアリキ是亦ゾーロストルカ如此ノ想像ヲ助ケタリ其變動トハ恰モゾーロストルノ時代ニ於テ北亞細亞ノ氣候遽カニ變セシコトアリ蓋シ其時マテハ極熱ノ地ナリシニ頓ニ返寒ノ地トナリタルコトアリキ近代スピケルトホーグノ二人カベニリダツト書ノ第一ノバルガルド名ヲ翻譯セリ其始メニ記スル所ニ由レハ曰クアリヤナワイジヨールハオーラマスタ名神ノカ樂國トスルカ為ニ作りタル土地ナリシニアングラ

マニユストト名クル死ヲ司ル所ノ惡神アリテ大蛇ヲ造リ而シテ冬ノ氣候ヲ作りタリ故ニ忽チ十ヶ月ノ冬アリ而シテ二月ノ夏アリ以上前節已前ハ七ヶ月ノ夏ト五ヶ月ノ冬アリキ其冬ハ水モ地モ樹モミナ凍徹シテ其所ニ冬ノ心在リ深雪ハ地上ニ堆積スコレ惡ノ最モ惡ナルコトナリ以上後節スピケルトモホーグモ此後節ノ文ヲ刪除シテ翻譯シタリ蓋シ附言ナリト思ヒシニ由テ之ヲ除キシカ將夕前節ト照應セストシテ脫除セシ

カ我以為ク此前後兩節ノ文ハアリヤンノ本國ナルアリヤナワイジヨノ氣候ノ頓ニ變換シタルニ由テ溫暖ナル地ノ忽チ寒國トナリシコトヲ説明スル為ニ記セル文ト見ルトキハ重複ニモ非スマタ前後相撞着スルニモ非ス恐クハアリヤン人カアリヤナワイジヨヨリ波斯ニ遷居セシモ或ハマサニ此氣候ノ變換セシヲ以テ原因トシタル者ナルヘキヤモ未タ知ルヘカラス此遷移ノ事アリシハボンセンモホーグモヘンリタツド書ノバルガルド篇中ニ其意趣ヲ

含蓄シタル者アリト考定セリ若シ此事ヲシテ事實ト符合セシメハ「ベダ」ノ最モ古キ部分ニ比スレハ更ニ古キ者ニシテ人種ノ統系ノ未タ波斯ト印度トノ二派ニ別カレサル前ニ中亞細亞ノ中真ヨリ南ニ向テ根元ノ所ヨリ流出シ來レルカ如ク見エタリ此貴重スヘキ「ヘンリダツト」ノ書ノ首メニ曰ク「我ハ新ニ家トシテ住スルニ適當ナル土地ヲ造クレリ何トナレハ若シ此地ヲ造ラスンハ人類漸クニ繁殖シテアリヤナワイジヨニ溢ルヘキカ故ナリト如此ヘンリダ

ツトノ首メニ於テ己ニ移住セル人民カ中亞細
 亞ナル本國ヲ思慕スルノ情ヲ見ル故ニゾロロ
 ストリヤンカ神ノ想像カト保護カトヲ信仰ス
 ルコトモ自ラ此中ニ含蓄セリ彼民族ハ以為ク
 温暖和煦ノ氣候ヲ變シテ頓ニ十ヶ月間ノ冬ア
 ルレベリヤ地方ノ氣候トナシタルモ神ノ所為
 ノ一ナリ上古ノ以蘭ハ大ニ民ノ稱シテ樂國ト
 スル土地ニシテ人類ハ盡ク其地ニ住スルコト
 ヲ好ムヲ以テ遂ニ人類ノ國內ニ溢ル、コトヲ
 懼ルレハナリ故ニ惡ノ魁首タルアローリマン(魔)

カ物ヲ破壊スル所ノ大蛇トナリ此地ニ闖入ス
 ルコトヲ神ヨリ許ルサレタリ茲ニ於テ七ヶ月
 間ノ夏ト五ヶ月ノ冬アリシ氣候ハ一變シテ十
 ケ月ノ冬ニケ月ノ夏トナリ了リシナリト去
 ハ此アリヤナワイジヨ一ハ印度歐羅巴人種ノ
 起リタル地ニシテホーグトボンゼンノ考アル
 所ニ由レハ北緯三十七度ヨリ四十度ノ間ニレ
 テ東經八十六度ト九十度ノ間ナルサマルカン
 ドノ東北ニ當ル平野ニ在リシ地ナリトセリ此
 地ハ恰モ冬ハ十ヶ月ニシテ夏ハ二ヶ月ノ三西

藏ノ西シベリヤノ中央亦此ニ同シモルトブラ
ン曰クシベリヤノ國タル冬ハ概ネ十ヶ月ニシ
テ地上雪無キハ六七兩月ノミナリ北緯六十度
ノ地ニ至テハ六月ノ廿八日ニ於テ猶ホ地ノ凍
ルコト三尺ノ深キニ及フト又手氣候ノ時ニ由
テ變スルコトハ其理無キコトニ非ス地質學者
ノ研究スル所ニ由レハ世ニ人ノ住居スル前ニ
氣候大ニ變シタリト云然ルニ中亞細亞北亞細
亞ノ如キハ近世ニ於テ氣候ノ變化シタル明證
アリ一千八百〇三年ニ北緯七十度ナルデノ河

岸ノ氷塊中ヨリマンモステ象ノ如キ者ノ全
體ノ顯レ出タルコトアリ此獸ハ數千年間氷ノ
為ニ凝結セラレタル者ニシテ其肉聊モ腐爛セ
スマタ乾固セサリシカ故ニ氷中ヨリ出ルニ際
シ忽チ豺狼ノ集リ来テ之ヲ啖ヒ盡シタリ爾後
北緯七十五度マテノ地ニ於テ同類ノ獸骸ノ氷
中ヨリ出タルコト屢々ニシテ其肉ハ全ク新鮮
ナルコト獵獲セシ者ニ殊ナラス今其獸ノ眼球
ハモスコウノ博物館ニ在リ是等ノ事ハ北緯七
十五度ノ所ニ達セル地ニ多カリント云之ニ依

テライルハ以爲ク中亞細亞ノ大ナル部分ノシ
ベリヤノ南半部ハ世界ノ歴史ニ於テ中古ト云
時代ニ至ルマテハ温和ナル氣候ニシテ象或ハ
豺等ノ獸類ノ食料ニ乏シカラサルホトニ物ヲ
生セシ土地ナリシナラント
去レハゾーロストルハ此外面ノ氣候ノ良否ト
地ノ轉移スル際ニ於テ渾テ世界ノ者ハ對立並
峙スル者ナリト思考シテ希伯來ノ詩人ノ如ク
神ハ萬物ヲ造ルニ每ニ二物互ニ相反スル物ヲ
生セリト以謂ヘリ印度ノ如キ「宇宙」
生セリト以謂ヘリ印度ノ如キ「宇宙」

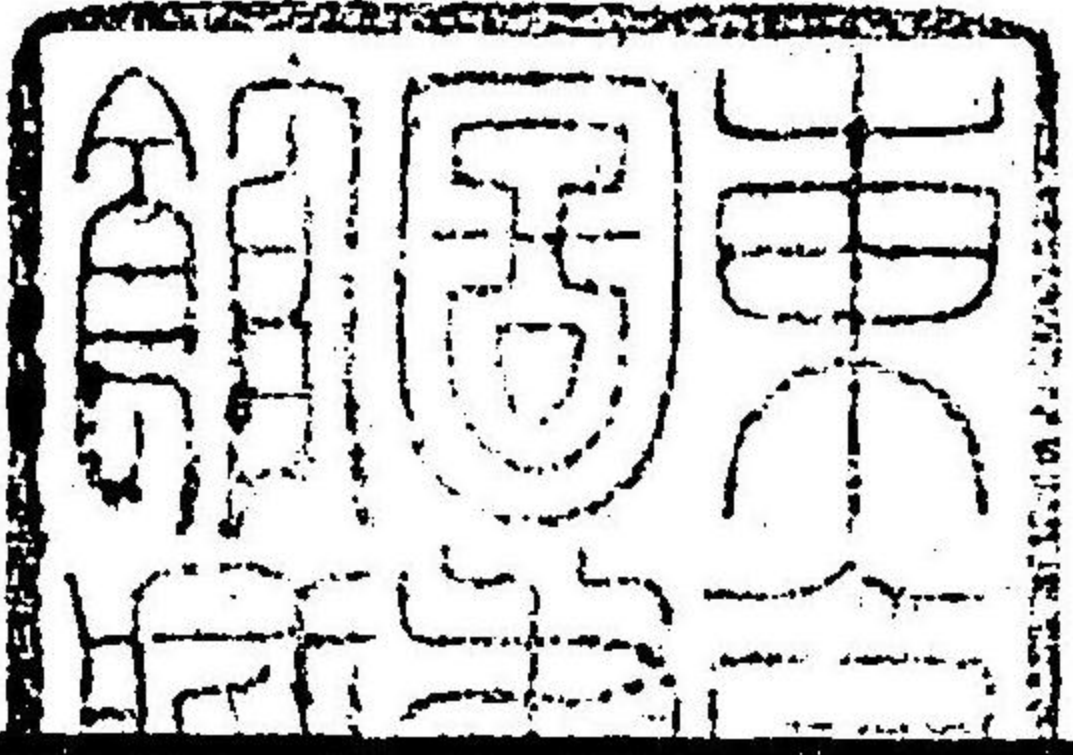
ヲ以テ神ハゾーロストルノ心ニ不滿ナリシヲ
トスル理ハゾーロストルノ心ニ不滿ナリシヲ
以テ即チ之ニ反シテ獨立セリ其教ノ大旨ニ曰
ク萬般ノ事物一物善ナレハ又一ツノ惡キ者ア
リトセリ故ニ此世界ハ爭競ノ世界ニシテ平和
ト寧息ノ世界ニ非ス善人ノ性命ハ安眠ニ非ス
シテ戰鬥ニ在リ若シ茲ニ善神アラハ必ス惡神
アリ惡神ノ力強且大ナル者ナレハ人々宜ク之
カ為ニ屈抑ヤラレスシテ之ト抗爭セサルヘカ
ラス善者ノ勝利ヲ得ルヲ期スヘシ然レトモ其
勝ヲ取ラント欲センニハ宜ク善戰健闘ヲ要ス

ヘシ其交戦ノ機會ハ身體ヲ以テスルニ非スシ
テ清廉ナル心ヲ以テス故ニ自己ノ心ヨリシテ
善言善行ノ發顯スルヲ以テ好キ軍機ヲ得ル者
トス去レハ此戦闘ヲ為スハ人タル者ノ本分ノ
職務ナリト是即チソノ口ストルカ一宗ノ精神
ナリ

火教大意卷上終

火教大意 林董譯 下

東 京 國 書 館				
二	一	一	七	
冊	九	架	函	類



大教大意卷下

第六章

ゼンド、アベスタノ性質

林董 口譯
干河岸貫一筆記

今ヤゼンド、アベスタノ書中ヨリ抜抄セル文ノ
前書ニ云フ所ノ相狀ヲ明カニ證徴シ以テ其兄
弟ナルヴエダト出ゼンド、アベスタノ兄弟ト云フ其
精神ノ殊ナル所以ヲ示サントス夫ゼンド、アベ
スタトヴエダトハ古キアリアンヲ以テ母喻ト

大教大意 卷下 三十一

レテ生シタル學生ノ子^{語ニシテ}以^{撒ト}雅^{路ノ}
 如ク弟兄未タ生レサル前ヨリ競争セシコトハ疑
 ヒヲ容レサル所ナリ此ニ由テ觀ルニ疎ナル理
 學者カ未タ分析ノ學術アルヲ知ラス徒ラニ聚
 合物ヲ以テ元素ト心得シカ如ク渾テ一般ノ宗
 教ノ異ナル所ヲ見スシテ直チニ諸教一致ノ論
 ヲ為ス者ハ未タ皮相ノ見タルコトヲ免カレサ
 ル也故ニゴツトウラルツハ曰ク一般ノ宗教ハ
 其主義ノ相同キ所アルヘシト雖トモ孔夫子^グ
 エダ[」]耶蘇ノ教書ヨリ僅ニ二三ノ文ヲ摘取シ其

同シキ處アルヲ以テ此等ノ教ハ渾テ同主義ナ
 リト云カ如キ疎漏短簡ナル手段ヲ以テ知り得
 ヘキ者ニハ非ス各自ノ宗意ヲ精密ニ玩索シ明
 了ニ領得セル後チニ於テヨリ始メテ其中ニ就
 テ某ノ部分ハ一般ノ宗教ニ普通ナル者ナリト
 云コトヲ説キ得ヘシト
 ゼンド、アベスタ[」]ノ書ヲ繙ク人若シ此書中ニ於
 テ神教或理學ノ事ヲ記載シタルヲ見シテ豫
 期セハ太タ失望スヘシ何トナレハ此書ハ理學
 ノ論ニハ非シテリトルシ[」]（日用諷誦ノ經）ナリ

即チ讚歎祈願感謝ノ句ヲ集合セル者ナリ中ニ
 於テ種々ノ神ニ祈願スル言アリ然リト雖トモ
 オルマツツヲ以テ至尊至貴ノ神トシテ其他ノ
 神ハミナ「オルマツツ」ノ屬類タル者ノ如シ
 ゴーロストル曰ク我ハ光輝ヲ以テ圍繞セラレ
 タル萬物ノ創造者「オラマスタ」(即チ「オルマツ
 ツ」)ヲ拜跪尊重ス我ハ七個ノ「アーチアンジヨル」
 大夫即チ保護神「アムシヤスパンズ」ヲ拜ス我ハ
 最初ノ牛ノ身體及ヒ牛ノ魂神ヲ拜ス我ハ渾テ
 不死ノ物ノ中ニ於テ最モ疾速ナル「オルマツツ」

ノ神火ヲ拜ス我ハ最モ尊高ナル不死ナル清淨
 ナル光明ナル主宰速疾ナル「オルマツツ」ノ眼目
 ナル譯者曰ク大陽ヲ「ニスラ」ヲ祈念ス我ハ神聖
 ナル「アルスタ」トニ祈ル我ハ善人ノ「フラビシ
 (精神)及ヒ「オルマツツ」ノ「フラビシ」我ノ「フラビシ」
 ヲ拜ス我ハ清淨ナル全世界ノ善良ナル男女ヲ
 稱讚ス我ハ健康ヲ載セ來ス所ノ金色ニシテ温
 度ヲ保テル幹ヲ有スル「ハラマ」ヲ稱讚ス我ハ斑
 點無クシテ光澤アル所ノ颯風ヨリモ疾ク走ル
 所ノ駟馬ニ駕シタル黑暗世界ヲ保護スル「スラ

オシヤ^レヲ稱讚ス(以上)ゾーロストル^ルノ文次ニ引
ク所ハ^レアベスタ^タ中尤モ古キ部分ナル^ルカタス^ルノ
文ナリ曰ク思想ノ美ニシテ文藻ノ麗ク作用ノ
好善ナル^ルザラトスト^ラニ白ス我ハ手ヲ舉ケテ
我ノ祈ル所ニ由テ神聖ニシテ精神ノ清廉ナル
業ノ幸樂ヲ願フ○善行ヲ行フ性質及ヒ身體ト
精神ノ二個ノ世界ニ向テ清淨ナル賜資ヲ願フ
○我ハ我魂神ヲ以テ天ニ委子タリ我ハ我カノ
竭ルマテノ清廉ヲ誨ユヘシ○我ハ永ク清廉ト
善心ノ保有スル^ルオーラマスダニ白ス請ラクハ

オーラマスダ^ダノ身ニ因テ我ヲ誨ヘラレヨ此世
界ノ始メテ成立セル所ノ^ルオーラマスダ^ダノ口ニ
由テ天ヨリ我ニ誨ヘヨ我ハ我精神ヲ以テ稱讚
スヘキ者ハ^レオーラマスダ^ダヲ以テ第一ナリト以
謂ヘリ吁^ハオーラマスダ^ダハ創造者ナリ世界ノ神
ナリ善業ノ神ナリ清廉無垢ナル想像ヲ成シタ
ル所ノ神ナリ廣大ナル知能ヲ以テ人ノ最モ善
良ナル精神ヲ助クル所ノ神ナリ○我ハ家畜ヲ
造リ水及ヒ美ナル樹木ヲ照耀スル光リ及ヒ世
界其他萬般ノ好善ナル物ヲ造リタル^ルオーラマ

スダニ許願ス我ハ清廉ナル女子ト男子ノ「ブラ
ビシ」(精神)及ヒ美好ナル物清潔ナル物不死ナル
物ノ「ブラビシ」ヲ稱讚ス○我ハ善良ナル精神ト
美ナル王國ト善良ナル法律及ヒ萬般ノ好善ナ
ル物ヲ尊敬ス茲ニ我輩ハ牛體ト其魂トヲ稱讚
シ我輩ノ精神ヲ稱讚シ我輩ノ性命ヲ保存スル
所ノ家畜ノ精神ヲ稱讚シ賢男貞婦ノ精神ヲ稱
讚シ水ノ流注スル所ヲ尊信シ道路ノ相岐スル
所ト相合スル所トヲ稱讚ス水源タル所ノ山峯
ヲ稱讚シ「オ」ラマス「タ」ノ造出セシ猛風ヲ稱讚

シ死ヲ驅リ遠サケテ生ヲ増殖スル所ノ「ハオマ」
ヲ稱讚ス○今我カ為メニ耳ヲ傾ケテ諦カニ聽
ケ知識ノ一ハ已ニ萬物ヲ造レリ惡道ハ既ニ世
界ヲ毀タサルヘシ○世界ノ始ニ於テ二個ノ天
ノ物ハ相語レリ其善キ物ハ惡キ物ニ向テ謂ラ
ク我々ノ精神教育言語事業ハ協和セスト○「オ」
「ラマス」ダ「ノ」心ヲハ我如何シテ満足セシムル
ヲ得ン我ハ甚微少ナル富ヲ有スル者ナリ如何
シテ我ハ我カ望ミノ如ク「オ」ラマス「ダ」ヲ稱讚
シ得ルヤ我ハ「オ」ラマス「ダ」ノ欲望スル所ヲ滿

足スヘキヤ否ヤ是我カ智慧ト我精神ノ決斷ス
ル所ナリ次ニ引ク所ノ文ハ「ゴルダ、アベスタ」ヨ
リ抜抄セシ者ナリ曰ク「○人ニ與ルコトヲ司ル
神人ニ許スコトヲ司ル神愛ニ富ム神ナル」オル
マツツノ名ヲ稱讚ス其者ハ恒ネニ天ニ於テ最
モ大ニシテ常不變ナリ此神ハ他ノ者ノ爲ス能
ハサル所ノ勢カラ有スル大主宰ニシテ大智大
カアル造物者ナリ保護者ナリ防禦者ナリスベ
テノ事業ノ成効者ト鑒視者ト清廉ニシテ方正
ナル者トニ向テ我ハ我スベテノカラ以テ感謝

ス萬有中尤モ大ナル諸物ヲ造々化々スル所ノ
神時日、能力、智慧、六ノ「アシヤ」スパンズ「日月、水、火、
地、草木、家畜、礦石、人類等壯偉ナル者ニ向テ謝ス
我ハ犧牲ヲ捧ケテ其神ヲ稱讚ス其者ハ善事ヲ
充全スル者人ヲシテ萬物ノ長夕ラシメタル者
言語ヲ賜與シテ萬物ノ靈トナラシメ以テ「チト
ハズ」ガ「ン」スク「リ」ツトニ所謂「デバ」ニ對抗セル軍
將トナラシメタル所ノ者ニ向テ犧牲ヲ捧ケテ
稱讚ス我々ハ神聖ナルゾ「ロ」ストルニ由テ此
世ノ萬物ニ平和ヲ與ヘ法律ノ恩惠ヲ與ヘタル

神ノカヲ稱讃ス其知識ハ天ノ知識ヨリ來リ之
ヲ聽クニ耳ヲ以テシ衆人ヲ誘フテ其先達トナ
リ人間ト天堂トノ間ニ架シタル橋上ヨリ墜落
シタル魂ヲ地獄ヨリ救ヒ出シテ光明馥郁ナル
天堂ニ導ク所ノ知識ヲ稱讃シ感謝ス

譯者曰ク此種類ノ歌頌太多シ其中ニハ
星ヲ稱讃スル詩アリ懺悔ヲ陳フル歌等ア
リト雖トモ其頗ル煩冗ニ涉ルヲ憚リ今ハ
之ヲ略ス

此ヲ以テ之ヲ觀ルニアベスタハ宗意ヲ説ク書

ニハ非ス唯神ヲ拜スル時ノ歌頌ナリ白俗カ自
宅ニ在テ私ニ讀ムモ可ナリ又僧侶カ人ヲ聚メ
テ公ケニ諷誦スルモ可ナル書ナリ如此書ハ當
時ノ宗旨ニ就テ其思想ヲ考覈スル爲ニハ最も
好キ助ケトナルハキ者ナリ人ノ信仰心ヲ見ル
ニハ如此ノ歌頌集ヲ以テ最も好キ助ケト爲ス
ヘキ者ナリ何トナレハ歌頌ハ理ヲ顯ス所ノ議
論ニ非スシテ中心ヨリ來ル所ノ語ナルヲ以テ
ナリ如此知識思想ノ趣向ヨリ生シタル者ニ非
スシテ眞實ノ心情ヲ吐露スル者タリ如此書ハ

決シテ贋作ニハ非ス何トナレハ歌頌等ハ人ノ
偽造スヘキ者ニ非ス假令之ヲ偽造スルトモ決
シテ廣ク世ニ行レサル者ナリアベスタハ「ベン
ゲタツト」(今存セル者二十二章)「ヒスペレット」(今
存スル者二十七章)「ヤスナ」(現存ノ者七十章)トヲ
合セテ一篇トス「ゴルトアベスタ」即チ小「アベス
タ」ハ「ヤシト」「パテツト」其他白俗ノ祈願ノ詩ヲ編
輯シタル者ナリス「ピーゲル」ノ考案ニ由レハ此
中「ヤスナ」ノ「ガタス」ハ最モ古キ者ニシテ「ベン
ダツト」之ニ「亞ギヤスナ」ノ始メノ部分ト「ゴルド

アベスタ」トハ亦之ニ亞ク者ナリトス

第七章

「ハンデベツシ」ノ時代ニ火教ノ成備セシ事
ハンデベツトト題セル書ハ上ニ列叙スル所ノ
書ヨリハ後チニ成レル書ナリ然リト雖トモ其
書ニ載スル所ハ遙カニ上古ニ溯リテ記シタル
者ナリ近来此書ヲ翻譯セルウレヂスチマン氏
謂ヘルコトアリ曰ク「ハンデ」ハ「ツシ」ノ書ニ就テ
沉潜反覆其旨趣ヲ玩索シテ此書ヨリ前ニ成リ
タル書ト比較シ来レハ未タ此書ヲ信セザリシ

人モ大ニ此書ノ偽造ニ非ルコトヲ信スルニ至ルヘシ我見ル所ニ據レハ此書ノ記者ハ古書ニ據テ古昔ノ宗意ヲ記シタル者ナリ故ニ愈々此書ヲ研覈スルトキハ其愈々偽撰ノ書ニ非ルヲ信スヘキヲ知ラント

次下ニ火教ノ事ヲ記スル部分多クハ「パン」デベツシ及ヒ後世ノ書ヨリ拔萃シタル者ナリ又「ロ」ド書ヨリ採リタルモアリ我竊ニ以爲ク「ゾ」ロストルノ時代ニハ未夕宗旨ニ如此文飾ハ無カリシ者ナルヘシ何ントナレハ「ア」ベスタ中最

モ古キ部分ノ篇ニ於テハ唯宗旨ノ種因ノミアリ所謂「ベンケタツト」火教ノ經典中最ノ篇ニ於テハ唯無始無終ノ神即チ「ゼ」ラナアケラナカ「カ」ホルマツツト「ア」ーリマントヲ造出シタル者ナリト云意味ヲ含ミタリト雖トモ世人ハ嘗テ「ア」ベスタニ於テ「ゼ」ラナアケラナノ宗意果シテ之アリヤ否ヤヲ疑ヘリ

元始ノ時無始無終ノ神「ゼ」ラナアケラナカニツノ大ナル神ヲ造クレリ其一ヲ「オ」ーラマスタ即チ光明ノ王ト名ケ其一ヲ「ア」ーリマン即チ黒

闇ノ王ト名ク「オーラマスタ」ハ光耀ナル世界ニ
住シ「アールマン」ハ無限ノ黒闇國ニ在テ互ニ相
抗爭スルノ端ヲ發ケリ之ニ依テ「セラナアケラ
ナ」ハ「アールマン」ノ作爲セル惡害ヲ撲滅センカ
爲ニ「オルマツツ」即チ「オーラマ」ヲシテ此世界ヲ
創造セシメ且ツ其壽命ヲ一萬二千歳ト定メタ
リ而シテ其歲月ヲ四分シ三千年ヲ以テ一期ト
シタリ初ノ「セラナアケラナ」ノ詔勅ヲ以テ豫定
シタル所ニ據レハ其一期ニハ「オルマツツ」カ獨
リ其威權ヲ專ニスルコトヲ得第二期ニ於テハ

「アールマン」ハ僅ニ其力ヲ伸ルコトヲ得ヘシト
雖トモ未タ恣ニ其惡ヲ逞フスルヲ得ス第三期
ニ及テハ「オルマツツ」ト「アールマン」ノ二神カ對
等ノ權カヲ得第四期ニ至テハ「オルマツツ」ヲシ
テ全勝ヲ得セシムベシト
茲ニ於テ「オルマツツ」ハ先ツ「プリウルスト」云ハ
ル物ヲ造リ以テ世界創造ノ事業ニ著手シタリ
之ヲ以テ創造セラレタル所ノ一切萬物ハ悉ク
皆「プリウルスト」ヲ有セサルハ無シ此「プリウルス
ト」ハ即チ萬物各自ニ存在スル基トナル物ヲ云

フナリ
「ホルマツツ」ト雖トモ「セラナアケラナ」ニ對シテ
ハ亦親ラ「フリウルス」ヲ有セリ去レハ此有形ノ
世界ノ未タ創造セラレスシテ混沌未剖ノ時ニ
ハ無形ノ世界アリ今ノ有形ノ世界ハ取モ直サ
ス無形ノ世界ニ形容ヲ與ヘタル者ナルノミ「オ
ルマツツ」ハ始ノ圓蓋形ノ天ト基礎タル地トヲ
作り而シテ其地上ニハ「アルボルジ」(今「エルブル
」)「山ト云フ」ノ高山ヲ造リタリ其山ノ絶巔ハ
天ニ接ス「ホルマツツ」ハ此山頂ヲ以テ己レカ住

在スル所ト定メタリ「アルボルジ」ノ山頂ト天ノ
「ゴロドマン」ト名クル所トノ中間ニ「シ子バツト」
ト名クル橋ヲ架シタリ「ゴロドマン」ハ即チ天惠
ヲ受ケタル者ノ住スル處ニシテ「シ子バツト」橋
ハ「ドサカト」名クル深キ谿壑ニ跨テ架シタル橋
ナリ「トサカ」谿ハ地底ニ在テ即チ「アールリマン」ノ
住所ナリ「義手」^{「ホルマツツ」}ハ第一期ノ三千年ヲ
閱歷シテ後ニハ「アールリマン」ト戰フヘキコトヲ
前知セシカ故ニ豫ノ兵器ヲ整頓シ兵士ヲ部署
シ大陽、大陰、恒星、惑星、等ノ光耀ナル物ヲ造テ己

レカ軍將ト爲セリ中ニ於テ第一トスベキハ最
 モ勇猛ニシテ最モ能ク奔馳シ永ク老死セサル
 所ノ大陽是ナリ故ニ此大陽ヲ封シテ有形世界
 ノ王トシ此大陽ヲシテ朝夕ニアルボルジノ山
 ヨリ出テ、天ノ最高ナル線路ヲ經過シ一週シ
 テ夕ヘニ及ンテ前ノ所ニ歸ラシム次ニ「オルマ
 ツツ」ハ大陰ヲ造レリ是ハ自ラ其光リヲ以テア
 ルボルジノ山ヲ出テ、地ノ低キ部分ヲ回旋ス次
 ニ五個ノ惑星及ヒ諸ノ恒星ヲ作レリ是等ハ天
 ノ最モ低キ線路ヲ旋クル故ニ天地ノ間ヲ三分

シテ日道月道星道トス衆多ノ星宿ハ「ア」リマ
 シト戦フ為ノ兵士ナリ之ヲ四大隊ニ分テ隊毎
 ニ將アリ十二ノ小隊ハ十二宮ニ陣營ヲ布キ前
 ノ四個ノ大隊ハ東西南北ニ分屯セリ先ツ木星
 ハ東方ヲ守衛シテ星ノ侯伯ト名ケ土星ハ西方
 ヲ守衛シ水星ハ南方火星ハ北方ヲ守リ天ノ中
 心ニハ金星アリ而シテ「オルマツツ」自ラ之カ元
 帥トナリテ「ア」リマンニ抗對ス「ユ」ラ星ハ天
 ノ守衛トシテ「シ」子バツト橋ヲ警衛シテ「ア」リ
 マン「ガ」ドサカノ谿頭ニ出来ルノ不虞ニ備フ「オ

ルマツヅハ天ニ於テ此等ノ準備全ク齊整シタ
リシ時ハ早既ニ第一期ノ終ニ垂ントスルニ至
レリアーリマンハ其黑暗界裡ニ在テオルマツ
ヅノ所爲ヲ知見シ其光輝アル所ノ創造ニ敵抗
スル爲メニ黒闇ナル世界ヲ造レリ其創造タル
渾テ光輝アル物ト比對スレハ其勢カト數量ト
ハ相均シカリキオルマツヅハアーリマンカ衆
多ノ艱苦ヲ生スルノ原因ヲ爲ルコトヲ知り且
ツ彼ト戦ハ、必ス勝利ヲ得ヘキヲ知りタリト
雖トモ先ツアーリマント和ヲ講セント以謂ヘ

リ然ルニアーリマン亦專ラ戦ハンコトヲ望ミ
タリシカオルマツヅノ威嚴ト神聖ナル人ノ淨
潔ナルアリウルス解前ニヲ懼レテ黒闇ナル谿
底ニ潛伏シテ第二期ヲ空過シケリ出ツオルマツヅ
ハ猶モ其間ニ地ノ創造ヲ充備セリ地ハ渾テ生
活物ノ母タルヲ以テサパンドマツトヲ以テ地
ノ守護神トシタリ又ゴルダツドニ命シテアル
ボルジ山ナルアンヂユイスルノ泉源ヨリ流出
スル水ノ守護神トシ兼ネテ年月日四時ノ頭領
トス惑星タルチスツリヤ(即チ水星)ニハ土星ノ

助ケテ假リテ水ヲ蒸氣トナシ之ヲ凝集シテ雲トシ而後之ヲ雨トシテ地ニ降スコトヲ司ラシム此雨ノ神ハ大ニ尊敬セラル、神ナリ又アメルダツトラシテ植物ノ守護ヲ掌ラシム然リト雖トモ大ナルミスラハ有機世界ノ繁殖ヲ司ル所ノ神ニシテ其職掌ハフリウルスヲ以テ有機物ノ體中ニ導ク事ナリ

「ホルマツヅ」ノ光明世界ニ於テハ地上ニ在ル物ニハ都テ其守護神アリ其守護神ヲ隊伍ニ分チ各々其長ト補助即チ偏裨アリ七個ノ「アンシヤ

「スパンズ」ハ其等ノ長ヲ統宰ス「ホルマツヅ」ハ其七個中ノ長タル者ナリ他ノ六個各分轄スル所アリ即チ「バーマン」ハ天ノ王ナリ「アルチベヘシ」トハ火ノ王ナリ「スカリブル」ハ金ノ王ナリ「ゴルダツ」トハ水ノ王ナリ「サパントマツド」ハ地ノ女王ナリ「アメルダツ」トハ植物ノ王ナリ如此準備ノ整肅スル際ダニ早ク既ニ第三期モ終リタリ又此二期ノ間ニ「ホルマツヅ」ハ初メテ牡牛ヲ作クレリ是ハ活動物ノ模型ニシテ渾テ活動物ノ種子ヲハ此中ニ放在セリ「ホルマツヅ」ハ如此自

家ノ光明世界ヲ結構シ經綸スル時ニ當テア
 リマンモ亦其黑闇ナル谿ニ於テ之ニ准シタル
 製造ヲ爲シホルマツツカ一ノ善良物ヲ作クル
 トキハア
 リマンモ亦一個ノ毒害物ヲ造レリ
 ア
 リマンハ七個ノ將ヲ置キテ各自ノ隊伍ヲ
 統轄セシム其將ヲ
 デーバスト名ク即チ
 オルマ
 ツツカ七個ノ長ナル
 アンシヤスパンズニ應シ
 タルナリ此大ナル戦備ノ整フニ及ンテ第二期
 ハ殆ト終リニ垂ントスルカ故ニ一人ノ將即チ
 デーバスカ
 ア
 リマンニ勸メテ軍ヲ起サシメ

タ
 リア
 リマンハ其軍隊ヲ部署スル時ニ善人
 ノ
 フ
 リウルスニ對抗スヘキ物無カリシヲ以テ
 軍氣沮喪シテ戦ヲ出スニ由ナク再ヒ暗處ニ潛
 伏セリ終ニ第二期ヲ經タルニ及ヒア
 リマン
 漸ク時機ニ會フヲ見テ聊モ畏憚スルノ念ナク
 天ニ向テ上昇セシカハ其軍隊亦追躡シテ起シ
 カトモ天ニ登リ得タル者ハ唯ア
 リマンノミ
 ニテ他ハミナ遺サレタリ之ニ由テア
 リマン
 ハ危懼ヲ生シ止ムヲ得ス蛇ト化シテ天ヨリ降
 リテ地ノ中心ニ入り且ツ
 オルマツツノ神體夕

ル火中ニマテ侵入シ煙ト蒸氣トヲ以テ火ヲ黷
セリ其後ニ及テアールリマンハ天ヲ襲撃ス此時
星ノ一部分ハ煙ト霞トニ掩蔽セラレテアールリ
マンノ掌握ニ歸シタリ茲ニ於テホルマツヅハ
神聖ナル人ノアリウルスノ援ケニ由テアールリ
マンヲ逆撃シ頗ル苦戦ナリシカ九十日夜ノ闘
争ノ後アールリマンノ軍悉ク潰敗シテミナリユ
ガツクノ谿中ニ驅リ入レテタリ然レトモア
ールリマンハ猶此處ニ止ラサリキ何トナレハ彼
ハ其從卒ノ爲ニ地中ヲ通過シテ甯道ヲ造リオ

ルマツヅト同ク地上ニ住スルカ故ナリ然ルニ
此事ハ固ト無始無終ノ神セラナアケラナノ豫
定セシ事ナリ去レハアールリマンカ此世界ニ於
テ醸出セル所ノ害惡ハ太夕畏懼スヘキ者ナリ
然ルニ彼カ愈々惡害ヲ逞フセント欲スルニ從
テ識ラス知ラスセラナアケラナノ豫定セル圖
謀ニ的合シテ愈々善事ノ長生ヲ促シタリ何ト
ナレハアールリマンハ彼牡牛ノ胎中ニ入テ遂ニ
之ヲ殺シタリシカ其牡牛ノ死シタルトキニ人
類ノ初祖タルカイヲマルツハ其尸ノ右肩ヨリ

出テ牛ノ精神ナル「ゴ」ンユラン「ハ」左肩ヨリ出テ
テ動物ノ守護トナリケリ又其牛骸ヨリ多クノ
動物植物ノ類ヲ出セリ「ア」ーリマン「ハ」之ヲ視テ
大ニ憤怒シ淨潔ナル動物一個毎ニ抗對スル不
淨ノ動物一個ヲ造出セリ如此ナルヲ以テ「オ」ル
マツツ「カ」犬ヲ造ルトキハ之ニ反シテ豺狼ヲ造
リ「オ」ルマツツ「カ」渾テ人間ノ便益ニ供スル獸畜
草木ヲ造レハ「ア」ーリマン「ハ」之ニ反シタル毒害
ノ動植物ヲ作レリ然リト雖トモ人類ノ初祖タ
ル「カ」イヲルツニ對抗スヘキ者ノミハ造リ出ス

コトヲ得サリシカ故ニ「ア」ーリマン「ハ」カイヤル
ツヲ殺サント決心シタリ此「カ」イヤマルツハ男
女合性ノ人ナリシカ其死シタル時ニ當テ胎中
ヨリ忽焉トシテ一對ノ男女ヲ生シタリ亦其屍
ヨリ生シタル樹木アリ次第ニ繁茂シテ花開キ
實ヲ結ヒシカ其葉中ヨリ十對ノ男女ヲ出セリ
初メノ一對ヲメスチヤ男メスチアン女ト名ケ
タリ是等ノ男女ハ本来罪惡無ク自ラ己レカ造
物者ナルコトヲ知テ「オ」ルマツツヲ禮拜シタリ
然ルニ「ア」ーリマン「ハ」姦謀ヲ以テメスチヤメス

チアンヲ欺騙シ之ヲシテ飲マシムルニ羊酪ヲ
以テシ而シテ彼等ヲシテ自ラ害ヲ被ラシメタ
リ又アリーリマンシハ菓物ヲ齎シ来テ彼男女ヲシ
テ噉ハシメタリ此罪惡ヲ犯セシヲ以テノ故ニ
全分ノ幸福ヲ滅殺セラレテ僅カニ百分一ノ幸
福ヲ保有スルコト、ハナリ又而後メスチアン
ハ初メテ「チーバス」魔ヲ拜シタリ五十年ノ後ニ
於テメスチヤメスチアンノ一男一女ノ中ニシ
ヤマツクベスチツクノ二人ノ子ヲ生ミ百歳ニ
シテ死セリ而シテ彼等ハ死後其罪惡ノ為メニ

地獄ノ苦痛ヲ受ケ一般ノ人類ハ其初祖タル男
女即チ父母ノ罪惡ニ由テ今ノ如キ賤劣ナル者
トハナリタレトモ亦靈妙ノ智識ヲ具有スル者
トス抑人ハ光明ト黑暗トノ二種ノ世界ノ中間
ニ立テ自家ノ思想ニ依テ種々ノ行ヒヲ爲スコ
トヲ得ル者ナリ去レハ人ハ原ト「ホルマツツ」ノ
造リタル物ナルカ故ニ人タル者ハ宜ク「ホルマ
ツツ」ヲ恭敬尊奉シテ恒ネニ其神意ヲ體シ以テ
惡事ト戰ハサルヘカラス然ルニ「アトリマン」ト
「チーバス」カ日夜「ホルマツツ」ヲ圍遠シテ其正道

ヲ行クトキハ邪路旁徑ニ導キ光明ナル心ヲ昏
マシテ黒闇ナル境域ニ伴ハンコトヲ試ミテ休
マス加之人ハ初祖一對ノ男女カ欺騙セラレタ
ル所ノ迷心ニ克ツコト能ハサル者多シ「ホルマ
ツヅ」ハ如此景情ヲ憐愍シテゾーロストルヲシ
テ天ノ規律ヲ明示シタリ人苟モ此規律ニ従ハ
バ直チニホルマツツ「バ」擁護ヲ受ルヲ以テ「チー
バ」スモ亦害ヲ加フルニ由ナシ先ツ其規律ノ精
神ハ其心思ヲ淨潔ニシ其言語ヲ淨潔ニスルニ
在リ何ントナレハ渾テ「ホルマツツ」ニ出タル者

ハ淨潔ニシテ「ア」リマン「ヨ」リ来レル者ハ不潔
ナリ身體ノ淨潔ナルハ德行ノ皓潔ナルニ同シ
トス故ニ身體ヲ清潔ニスルコトニ就テハ衆多
ノ教規アリ剋實シテ云ヘハ神ヲ拜スルコトニ
就テハ此事ヲ説ク者多シ
初メ「ホルマツツ」ノ造リタル人類ノ「バ」シス
前ニ「フリカ」ル「ス」ハ天ニ在ル所ノ「ホルマツツ」ノ
ト云フニ同シ「ハ」天ニ在ル所ノ「ホルマツツ」ノ
光明世界ニ於テ保持セララル然リト雖トモ彼「チ
ラ」バシス人ノ身體ト抱合スルカ爲ニ天ヨリ降
テ人世ヲ試ムル所ノ道ニ趣向セサルベカラス

去レハ此道ヲ二個ノ運命ノ道トハ名ケタリ此
人世ニ在テ善事ヲ簡ヒテ行ヒタル者ハ死シテ
後善神ニ導カレヌラ（神犬）ノ警衛スル所ト為リ
シ子バツトノ橋ニ至ル惡事ヲ為セル者ハチ
バスニ拘引セラレテシ子バツトノ橋ニ達スルト
キオルマツツカ審署ヲ設ケテ精靈ノ往ク所ヲ
裁斷シ其善者ヲシテ橋ヲ經テ恩惠ノ家ニ赴キ
アムシヤスバンヌノ懇篤ナル接待ヲ蒙リ惡者
ハシユサツクノ谿ニ墮落シテダバスノ爲ニ
苦惱ヲ受クルノ時限ハオルマツツノ定メタル

所ニ由ルト雖トモ或ハ其惡人ノ親友ノ祈禱ト
願請トニ由テ早ク救ハル、ヲ得多クハ死者ノ
盡ク蘇生スル時ニ至ルマテ留住スア一リマン
ハ三千年間人世ニ向テ大ナル勢力ヲ振ヒシ後
ニ自ラ其局ヲ結ヒ其七個ノ惑星ニ抵敵スル爲
メニ作りタル七個ノ水星アリ此星ハ萬物ヲシ
テ危殆ナラシメ人ヲ恐赫シツ、天ヲ旋クル然
リト雖一モオルマツツハ是等ヲ制馭スル為ニ
第四期ノマサニ終ントスルニ臨ムテ無始無終
ノ神無極ノ神ナルセラナアケラナノ命ニ由テ

水星中ノ一個ハ其衛星タル所ノ大陰ト分離シ
テ此世界ニ衝突シ一大火災ヲ起スニ至ルマテ
ハ此等ノ七個ノ水星ヲシテ七個ノ惑星ノ管轄
ヲ受ケシメタリ然ルニ「ホルマツヅ」ハ此ヨリ前
キ豫言者ゾシヨツクヲシテ此世ニ誕生セシメ
勉メテ人ヲ善道ニ導キ以テ一般ノ精靈ヲシテ
蘊生セシムヘシ其精靈悉ク蘊生スルノ期ニ及
ヘハ「ホルマツヅ」ハ新鮮ナル肉ヲ以テ人ノ枯骨
ヲ掩ヒ其親戚朋友ヲシテ互ニ再ヒ相見ルヲ得
セシム然ル後罪障深キ者ト善良方正ナル者ト

ヲ大ニ區分スルノ期ニ至ル彼「ア」リマシ「カ」己
ノ殘暴悖戾ナル心ヲ悦ハシムル爲ニ地上ニ水
星ヲ墮ストキニ却テ自家ノ意ニ反シタル結果
ヲ收メテ實ハ無極ノ神「ゼ」ラナアケラ「ナ」ノ命令
ニ從フ如キ者ナリ何トナレハ此水星ニ由テ生
シタル所ノ火災ニ由テ全地球ハ溶解シタル熱
鐵ノ如キ物トナリテ己レカ住所ナル黑闇界裡
ニ流注スヘキカ故ナリ此時ニ於テ萬種ノ動物
ハ必ス此鎔湯ノ中ヲ来往セサルヲ得ス然ルニ
善者ニハ溫暖ナル乳ノ如キ感觸ヲ爲シテ徐々

其善者ノ住所ニ達スルコトヲ得ヘシ然ルニ罪
惡深キ者ハ此世界ノ鎔解シテ奔流スルカ爲ニ
没溺漂流シテジユサツクノ谿ニ至ル此ニ於テ
惡人等ハ三晝夜間其身ヲ焚焦セラレ身體全ク
淨潔ニナリ而シテ「オルマツツ」ニ祈請シテ天ニ
上昇スルコトヲ得ルナリ其後「アーリマン」及ヒ
「ジユサツク」モ此火ニ由テ清潔トナリ了リ一切
ノ惡事悉ク銷燼シテ一切ノ暗黒ナルコトハ全
ク其跡ヲ絶ツニ至ル此火ノ銷滅シタルトキニ
於テ最モ光澤ニシテ淨潔ナル地ヲ生シテ未來

永ク存在ス。

「バンデヘツシ」ノ宗教ハ上來演フル所ノ如クナ
ル者ナリ然ルニ是ハ「ゾーロストル」ノ發明スル
所ニモ非ス亦其他ノ人ノ發見セシ者ニモ非ス
渾テ宗教ハ人ノ發明ニ由テ成立スルニ非スシ
テ自然ニ顯現スル者ナリ「馬哈默」ノ教スラ猶其
ヨリ先キニ人ノ信セシ事ヲ以テ根據トセル者
ナリ況ヤ其他ヲヤ故ニ宗教ノ肇祖タル者ハ其
教ヲ發明セル者ニハ非ス唯自然生ノ宗教ニ形
容ヲ與ヘタル者ナル而已恰モ一教ノ肇祖タル

火教大意

卷下

五十二

千河津氏藏版

人ノ深遠ナル思想ノ周圍ニ於テ既ニ世人ノ信
仰セル事カ凝集シ結晶シテヤノ宗教ヲ形成ス
ル者ナリト謂フヘシ去レハゾーロストルハ其
時代ニ當テ衆人ノ思想ヲ導キ以テ自然ノ宗教
ニ向テ大ナル勢カヲ與ヘタリ其自然ノ宗教ニ
名ヲ命シテ之ヲ天ニ安置シタリ然則ゾーロス
トルハ既ニ存在セル事狀ヲ明瞭ニ説明シ且ツ
之ヲ組織シ之ニ加フルニ道義ノ誨ト活動ノ勢
カトヲ以テセシ人ナリト謂フベシ

第八章

セントアベスタノ宗旨ト吠陀ノ宗旨トノ
關係

吠陀ノ宗旨トアベスタノ宗旨トハ之ヨリ先キ
ニ在リタルアリヤノ宗教ヨリ生出シ其中心
ニ於テハ共ニ一神教ナリト雖トモ自然力中ニ
神カヲ埋没スル譯者曰神カト自然ノ勢カト同
等ナル者ト看做スル見アルヲ
云コトハヒクテツト及ヒ其他ノ學士ノ研覈ス
ル所ニ由テ明瞭ニ知ルコトヲ得ヘシ去レハア
リヤン人種ノ上古ノ宗教ハ早ニ種ニ別離シテ
各々其方嚮ヲ殊ニセリ即チ其一ハ吠陀ニシテ

其一ハ「アベスタ」ナリ然リト雖トモ二宗各同様ナルコトアリ例セハ「インドラ」神ノ名「スラ」同上「ナオガイツヤ」上等ノ名ハ二宗共ニ之ヲ用ユ吠陀ニ於テハ彼等ハ皆神ノ名トシ「アベスタ」ニ於テハ惡魔ノ名トス「インドラ」ハ「リグウエダ」ニテハ最モ尊高ナル神ノ一ナリトシテ之ヲ祈念ス然ルニ「アベスタ」ニ於テハ惡魔ノ如クニ見做セリ修羅ハ「シハ」ノ舊名ナリ之ヲ「アベスタ」ニテハ「ヂーバ」或ハ「ジュート」稱シテ惡魔トシ「ナオガイツキ」モ亦之ヲ惡魔トス即チ吠陀ノ「ナサチヤ」ニシテ

「ドーン」譯トノ前ニ出テ来タル孿子ノ一個ノ名ナリ「ジュース」或ハ「ヂーバス」ハ「アベスタ」ニ於テハ惡魔トスレトモ吠陀ニテハ神トス之ニ及シテ「アヒユラマスダ」ハ「アベスタ」ノ神ノ名ニシテ「アシユラマスダ」ハ吠陀ノ魔ノ名ナリ「メニユ」ノ方ニ於テハ此人種ノ原ト起リタル處ヲアリ「アベスタ」ト名ク「アヘスタ」ニ於テハ「アリヤナワ」イ「ジヨウ」ト名ク大陽ハ兩宗共ニ「ミスラ」或ハ「ミト」ト名ク火教ノ閻魔ハ幸福ナル王ナリ「ヒン」ト吠陀教「印度教」ノ閻魔ハ幽冥ヲ主宰スル所ノ

威嚴ナル裁判官ナリ印度宗ニ於テ大ヲ以テ憎ムハキ獸類トシゾーロストルノ宗旨ニテハ尊敬スヘキ動物トス兩宗ガバスタト共ニ人ノ尸骸ニ觸ル、トキハ穢カル、コト、シテ之ヲ懼レマタ兩宗共ニ火ヲ神ナリトシテ尊重ス然ルニ最モ著ク兩宗ノ云フ所ノ相似タルコトハ梵語ニテゾーマト名ケゼント語ニテホーマト稱スルハアスクレピヤスアシダト名クル草ヨリ取タル者ニシテ人ヲ醉ハシムル氣ヲ有セル露ヲ拜スルコトナリホーマトゾーマト同キコト

ハ既ニ證徴アル者ナリサマアベスタハ全篇此草ヲ拜スルコトヲ記セリ又アベスタノ最モ緊要ナル部ハ此ホーマト祝スル所ノ歌頌ナリ去レハ如此人ヲシテ醉ハシムル所ノ氣アル草ヲ兩宗共ニ尊敬スルヲ以テ見レハ未タ嘗テ酒ヲ知ラサル國ヨリ來レル教ナルコトヲ知ルニ足レリ蓋シ未タ酒アルヲ知ラサル人民ハ酩酊ヲ以テ頗ル奇異尊重ノ想ヲナシ殆ント神ノ恩賚ナリト感戴セシナルヘシ是ヲ以テ聰明健康強勇長壽戰ニ勝利ヲ得ル丈夫ヲ生スル等渾テ

草ヨリ出ルカ如ク思做セリ希臘人ノ所謂「バコ
ス」ハ最モ古キ「アリヤン」人ノ「ホーマ」或ハ「ゾーマ」
トハ同物異名ナリ故ニ此ニ宗教ハ同所ヨリ出
テ、同ク其口碑ニ傳ヘタル事ニ遵循シテ遂ニ
彼レノ神トスル所ハ我レノ惡魔ナリト云テ互
ニ爭競シ氷炭相容レサルニ至レル者ナリ印度
人ハ波斯ノ「ジュアリスム」善惡黑白等ニツテ憎
惡シゾ「ローストール」ノ宗徒ハ吠陀宗ニ道德ノ教
無キコトヲ賤惡シタリ印度ノ宗旨ハ夢想ノ宗
教ナリ波斯人ノ宗旨ハ戰鬥ノ宗教ナリ恰モ耶

蕪宗ノクエツケル派ト「ガルビニス」派トノ如シ
宜矣哉其互ニ相協ハサルヤ

第九章

「ゼンド、アベスタ」ハ一神教カ將タ純然タル
「ジュアリスム」ナル乎

我輩ハ「アベスタ」ノ最モ古キ部分ニ於テ既ニ其
「ハンデヘツ」シテ後チニ整齊セル宗理ヲ形
成セシメタル所ノ萌芽アルヲ見ル「ベンリダ」
ト「アベスタ」ノニ所謂「セラナアケラナ」ハ即チ無
極ノ時無限ノ時ニ於テ「アーリマン」ヲ造リタル

者ナリスピーケルハオルマツツトア一リマン
 ノ上ニ此一個ノ尊貴ナル者即チ無始無終ノ神
 ナル^レゼラナアケラナヲ置クコトハ本来ノ波斯
 ノ宗意ニ非スシテ^レセミチツキノ源ヨリ假リ用
 ヒタル者ナリト云果シテ然ラハオルマツツハ
 最尊無上ナル者ニシテ他ノ此神ヲ造リタル者
 アルコトナク萬物ノ創造者タルベシ然ラハ則
 チオルマツツハ^レフリウルスヲ有スヘキノ理ア
 ルコトナシ又^レオルマツツハ親カラ^レア一リマン
 ヲ造リタルカ或ハ^レア一リマンハ^レオルマツツト

同ク無始無終ナル者ナリヤ若シア一リマンモ
 無始無終ノ者トセハ即チ純然タル^レシユア^レス
 ムナリ故ニ善惡ノ二カノ背後ニ於テ善惡ヨリ
 前キニ存セル一個ノカアリ而シテ之ヨリ善惡
 ノカヲ起シ後其本ニ歸攝スル者トスルノ説ヲ
 以テ當ヲ得タリトス又^レベンリタツト^レ書ノ^レバル
 ガルト^レ名^レ篇ニ於テ後來ニ降生スル所ノ救世者ア
 リ名ヲ^レソシヨツクト云トイヘリ^レバルシス^レハ此
 ソシヨツク^レカ萬物ノ終リニ出テ来テ萬物ヲ蘇
 セシメ災害ナキ幸福ナル世界ト爲ル日ヲ期ス

且ツ其蘊生スル説ハ宗教ノ起原セルヨリ在リ
シ者ナルヤ否ヤハ太夕疑フヘキ者ナリ其他
ントアベスタク中ニ於テハ一モ三千年ヲ以テ一
期トスル事ニ就テ論セル者ナシアベスタクニ於
テハ蘊生ノ事ニ干涉シタル文兩三節アリ然リ
ト雖トモ「オルマツツ」ト「アリリマン」ノ戦トアリ
ウルズト善良ナル神聖世界トノ三條ハアベス
クニ濫觴シテ一教ノ主腦トナリシト見ヘタリ

第十章

火教ト耶蘊教トノ關係

「アベスタ」ノ宗教ヲ以テ他ノ宗教ト對較シ来レ
ハ最モ今ノ耶蘊教ニ近キ者トス此火教ハ其波
斯王國ト共ニ泯滅シテ已ニ許多ノ星霜ヲ經而
シテ馬哈默教ノ爲ニ驅攘セラレタリト雖トモ
其餘香殘影ハ猶ホ人間ニ存在シテ猶太ト耶蘊
トノ二宗ニ寓寄セリ耶蘊教ハ猶太教ニ依テ火
教ヨリ天使ト魔鬼ノ説話ヲ假借セリ此世界ニ
於テ惡事多シトスル者亦火教ヨリ假リ来レル
者ナリ彼少年ト魔鬼ト魂魄ヲ孤注トシテ博戲
ヲ為ス圖「ミチビル」ト魔ト戰フ圖「ミルトン」ハ

ラダイロータ^名詩ノ「ゴイス」ノ「ハラス」ノ如キハ即チゾーロストルノ勢力カ猶太ノ宗教ニ及ホシテ耶蘇教カ猶太ヨリ之ヲ假用ヒタルニアラス、シハ恐クハ世ニ見サリシナラン猶太教ニ由レハ其人民カ巴比倫ヨリ歸リタル後ニ魔ハスピリチユアルビーイング(精靈)ノ一部ニ屬シ了レリ前ニハ神使タルインチルス^ト云ヘル者アリキ然トモ之ヨリ先キ魔鬼ハ無カリキ其時マテハ神親ラ世界ヲ管理シテ別ニ敵抗スルカヲ許シタル者ナカリシナリ^{約百紀ニ於テ所謂撒但ハ}

神使ニシテ魔鬼ニハ非ス唯監官ノ如キ職ヲ掌リ以テ恒ニ^{聖者}ノ過チヲ見出スコトヲ務メトスル者ナリシニ猶太人民カ巴比倫ニ囚擄トナリタル後ニ猶太人ノ想像ノ境域自ラ廣マリ魔鬼ハ天使ニモ人民ニモ自由ヲ與フル者トシ善惡並ヒ行ハル、者ナリトノ考案ヲ起シタリ又此時ニ於テ未来ノ命運ノ事ヲモ想起シ遂ニ蘇生ノ説ヲ發明セリ抑是等ノ教ハゾーロストルノ教ニ根據セシ者ナルコトハ疑フヘクモアラズ然リト雖トモ如此火教ト密附ノ關係ヲ有ス

ル前ニ猶太ノ預言者ナル者アリテ後世卓異ナル賢者ノ出テ、其國ヲ恢復スルコトアラント想像シ善者カ惡人ニ向テ戰鬪ヲ爲ス等ノ説アルニ由テ此火教ト密接スル媒紹ヲ成シタリ左リナカラ猶太人ハ火教ヲ以テ他ノ宗教ニ比スルニ最モ自己ノ教ニ近キ所アルヲ見出セリ即ハチ偶像ヲ拜セス見ルヘカラサル者ヲ拜スルカ如キ是ナリ火教ハ大陽及ヒ火ヲ以テ神ノ現カトスレトモ神ノ本體ハ得テ見ルヘカラサル所ニ在リトス猶太人ハ始テ彼ノ國人カ偶像ヲ

禮拜セサルコトヲ見タル後チニ漸クニシテ自家宗教ノ古代ノ儀式ヲ回復シテ偶像ヲ棄擲スルニ至レリ去レハ猶太人民ハ巴比倫ノ囚ヲ脱シゾーロストルト摩西トヲシテ手ヲ携ヘテ同境ニ遊ハシメタル後ニ火教ト猶太教ト接合シテ偶像ヲ廢シタリ又火教ト耶蘇教ノ極メテ符合スル所ハ人ノ生涯ヲ以テ善ト惡トノ戰ナリトスルノ點ニ在リ新約全書ヲ讀メハ耶蘇ハ屢々天國ヲ説キ精神ノ謙遜ナル者ハ恩惠ヲ受クトス何ントナレハ天國ハ如此人ノ爲ニ設ケラレタル

カ故ニ新約全書ノ語ト云ヒ施洗約翰モ基督モ天國ノ
 近キコトヲ明言セリ使徒行傳ニモ天國ヲ以テ
 其宗意ノ緊要ナル者トセリ救世主ヲ想像スル
 ニ王ニシテ油ヲ灌カレタル耶和華ノ王國ノ主
 領ノ如ク見エタリ耶蘇基督ト云モ亦其意ヲ含
 ミタル語ナリ耶蘇モ亦其語ヲ認可シテ自ラ基
 督ト稱セリ耶蘇カ彼拉多ニ答フル語ニ爾チハ
 予ヲ猶太人ノ王ナリト云乎予ハ王タルカ為ニ
 此世ニ降誕セリ予ハ事ノ實真ナルヲ證スル者
 ナリ等ノ語アリ

古ヨリ信義ノ道ヲ定ムルカ為ニ智恵ト善良ナ
 ルコト、共同一致センコトヲ望ムノ心ハ人ノ
 腦裡ニ存セリ過誤ト放恣トハ互ニ分離スル者
 ナリ唯善ト真ノミハ共同スルコトヲ得凡ヘテ
 世上萬般ノ事理此外ニ出テスシテ共同シ即チ
 善ト真ノ強キ者ハ勢力トナリ志望トナル故ニ
 ビタゴラス希臘古代ノ賢人ノ學校ブラト同上ノ共和
 政治斯巴達ノ共和政治亞細亞歐羅巴ノ教會及
 近來ノプロテスタント(新教)ノ如キ共同シテ
 事ヲ爲スノ志望ヲ起セリ猶太ノ人民ハ始メ此

志望ヲ起シテ共和ノ政體ヲ設立シタリシカ其
國ノ瓦解シタル後チニ救世主ノ來生スル時ヲ
待ツコトハ預言者ノ讖語ニ由テ共同ノ志望ヲ
存シタリ人ノ心ニ於テ一ノ大事業ヲ成サント
スル志ヲ抱クトキハ之カ首領トナル者ニ倚賴
セント欲スルノ性質ヲ具ナフ故ニ猶太人民ハ
其主領タル人ノ起ランコトヲ希望シタリ其真
ノ聖王ノ起ルアリテ平和ト信義ヲ施シテ天國
ヲ地上ニ創立セラレンコトヲ望ミタル際ニ當
テ波斯ナル宗教上ヨリ同一ノ志望ヲ取り來レ

リ波斯ノ火教ニテモ人ノ事業ハ善人ト善神ト
共同シテ惡人ト魔ト戰ヒ而シテ天國ヲ造ルコ
トヲ旨トセリ然ルニ其戰ハ甚タ永クシテ且苦
戰ナルヘシト雖トモ終ニ之ニ勝タンコト必矣
トシ火教ノ徒モ亦モソレヨツク火教ノ預言即
チ善惡ノ中保人ノ起ランコトヲ望ミタリ恰モ
猶太人カ救世主ノ生スルコトヲ望ミタルカ如
シ是則チ兩教ノ最モ好ク符合スル所ナリ耶蘇
ノ生レシトキ數人ノ博士カ耶路撒冷ニ向テ耶
蘇ヲ拜スル爲ニ來リシト云談話亦此志望アル

六十二

ヨリ造出セシ語ナリ 耶蕪ハ遂ニ救世主トナリ
テ其望ヲ達シタリ然ルニ其達シタル方法ニ至
テハ猶太ノ預言者カ言ノ如ク猶太ノ王ト爲リ
シニハ非ス一層高尚ナル所ノ天ニ及ホシテ其
真ト價直アル要點トノ志望ヲ達セルナリ原ト
耶蕪宗ノ志望タル決シテ人ノ靈塊ヲ救済スル
カ爲ニハ非スシテ地上ニ於テ王國ヲ再興スル
コトナリシ如此耶蕪ハ猶太ノ宗教ノ精神ヲ養
成シ而シテ真ノ基督トナリテ預言者ノ言ニ準
擬スルニ至レリ今日ニシテ云ヘハ耶蕪教亦原

トノ宗意ニ復ルヲ可トスヘシ然則耶蕪宗徒ハ
將來天國ニ生レシコトヲ望ムヨリハ寧ロ此世
界ニ在テ親愛ト至誠トニ由テ王國ヲ建ルトキ
ハ無上ノ美事ナリ嘗テゾーロストルノ教ヘ
タル善ト真トカ惡ニ對抗シテ戰フコトハ今ニ
於テモ猶ホ依然トシテ人世ノ常務トナレリ是
ヲ真ノ耶蕪教ト云モ亦不可ナカラシゾーロス
トルノ古キ教旨ハ恰モ野ニ播セル麥種ノ如ク
枯朽シ了リタリト雖トモ其種因ヨリシテ更ニ
耶蕪教ナル新キ實葉ヲ收メタリ今ニ至テモ波

斯印度ノ地方ニ於テ少ク火教ヲ奉スル者ノ遺
存スルアリ其教徒ハ品行善良ニシテ勉強ナル
人民ナリ中ニ於テ富ミ且ツ仁ナル人アリ即チ
其宗徒タルジヤゼツヂ、チーヂーボーイハ病
院、學校其他貧民賑恤ノ爲ニ一百五十萬ドルヲ
ル強ク消費セリ世ニ復如此人アルヤ我未タ之
ヲ見ス我以爲ク實ニ一人ノカト雖トモ幾許ノ
功能アリヤハ人ノ能ク測知スヘキ所ニ非ス何
ヲ以テ然カ云フトナラハ彼ゾーロストルハ真
ノ名字ヲモ知ラス亦何ノ所ニ住シ何等ノ時ニ

生存シ何等ノ所ニ生レテ何等ノ事ヲ説キ誨ヘ
シヤハ前ニ記スル所ノ外ハ之ヲ明知スルニ由
ナシ然ルニ此一人ノ思想ノ泉源ヨリ數千載ノ
間流注スル所ノ者ハ能ク人ノ精神ヲシテ肥饒
ナラシメ以テ善ヲ輔翼シ惡ヲ撲滅スルノ功勳
ヲ奏スア、一己人ノカトイヘトモ亦太タ盛大
ナリト謂ハサルヘケンヤ

火教大意卷下終

火教大意卷下終

明治十六年八月四日版權免許
同年九月出版

定價五拾錢

譯者

静岡縣士族

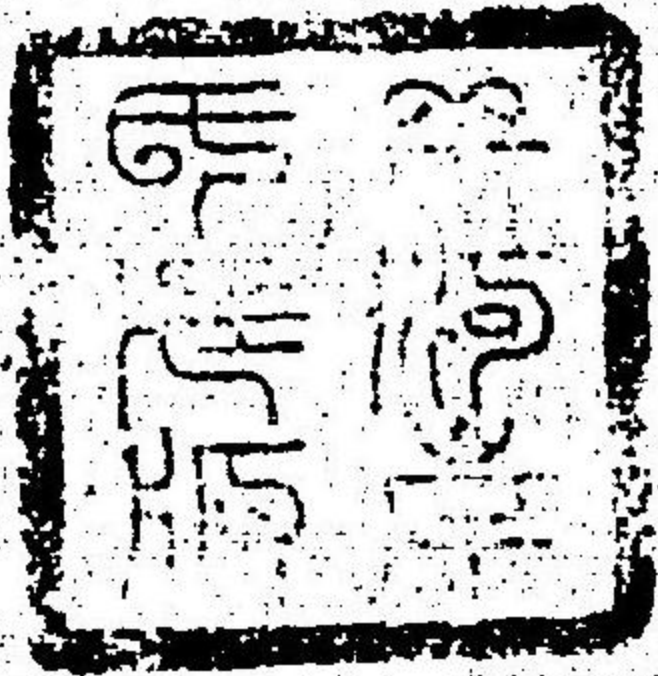
林

董

麹町區富士見町四丁目七番地住

福島縣平民

出版人



千河岸貫一

本所區外手町三十九番地寄留

發兌

大坂備後町四丁目

吉岡平助

同心齊橋筋壹丁目

松村九兵衛

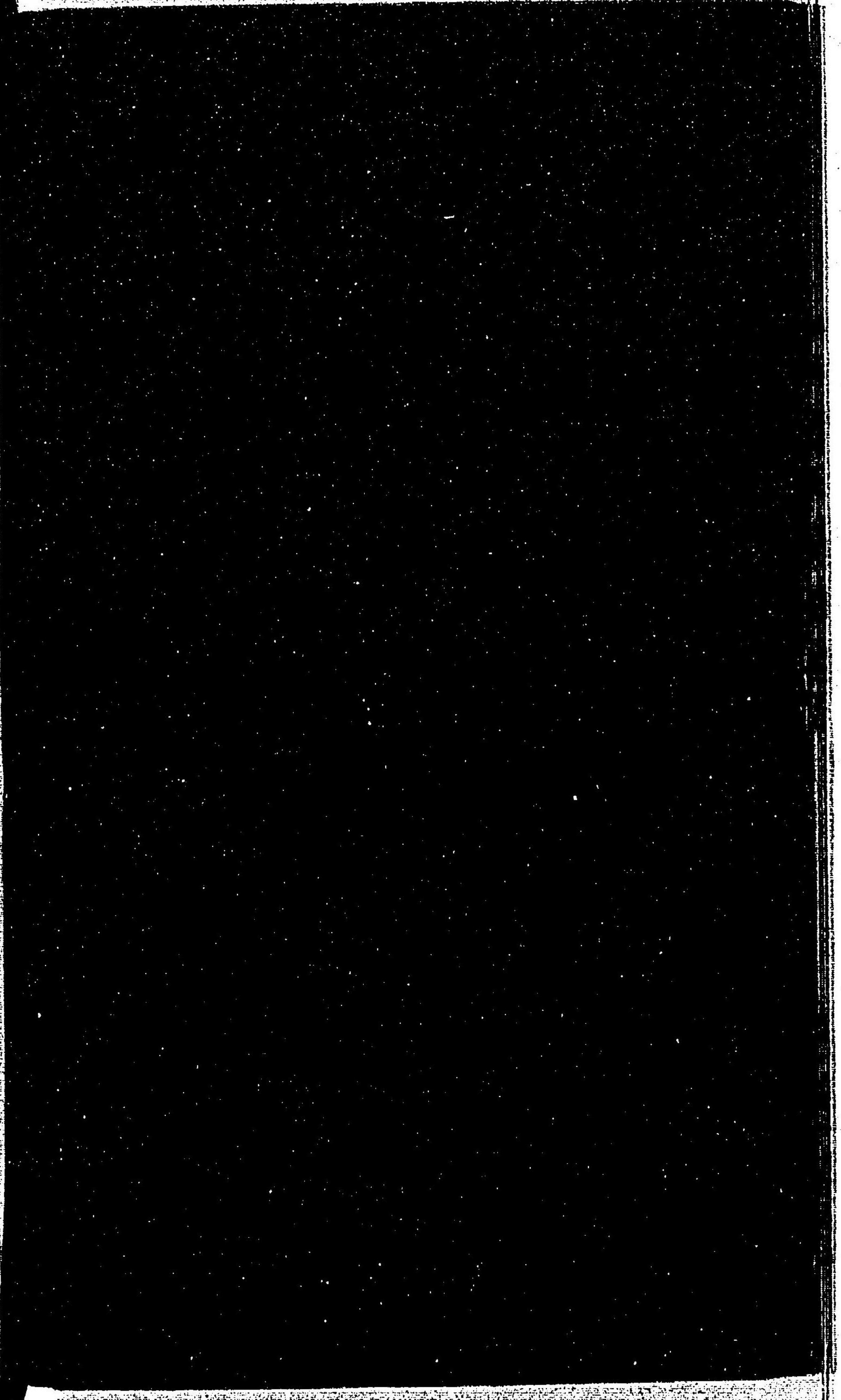
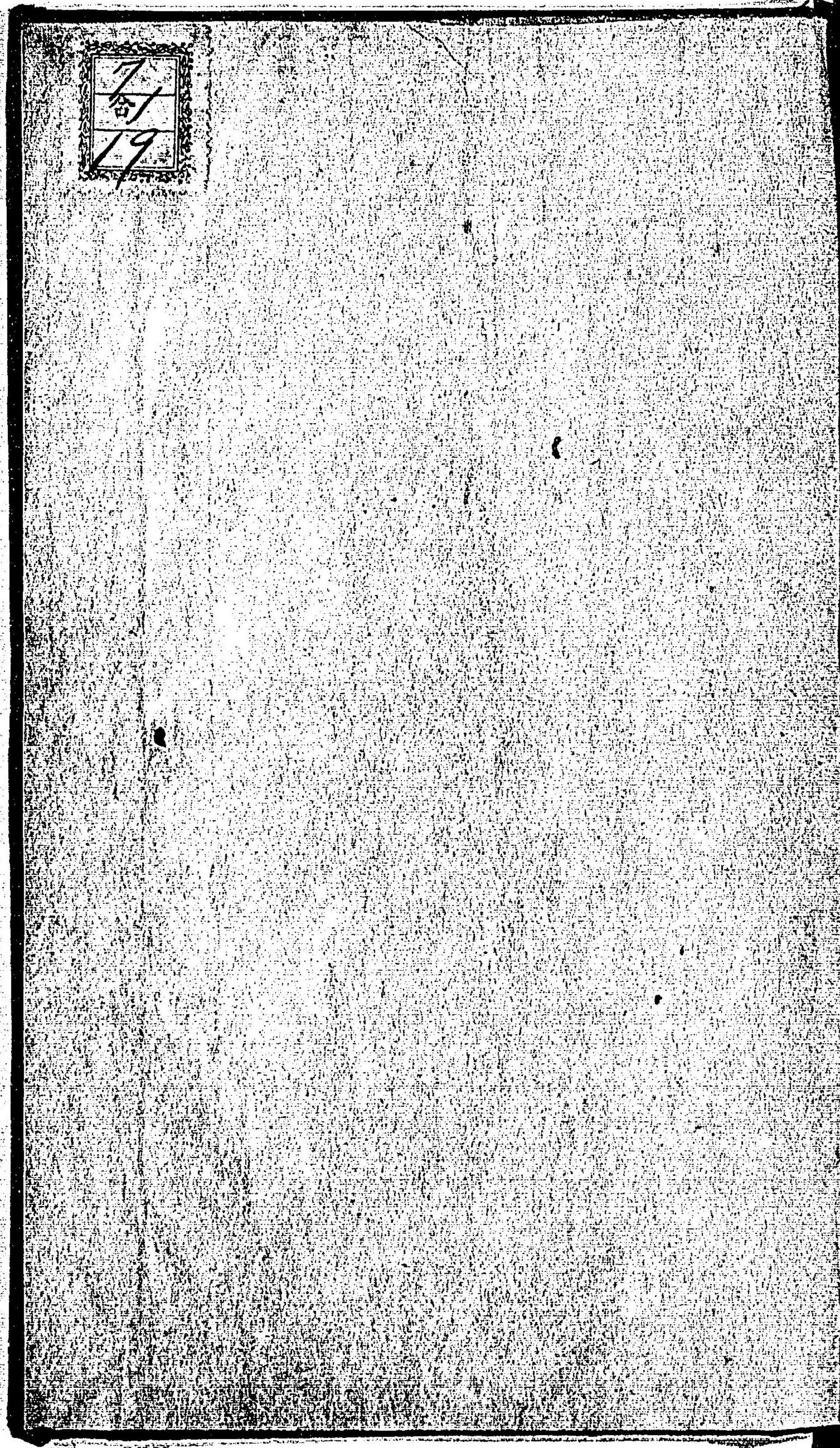
東京馬喰町貳丁目五番地

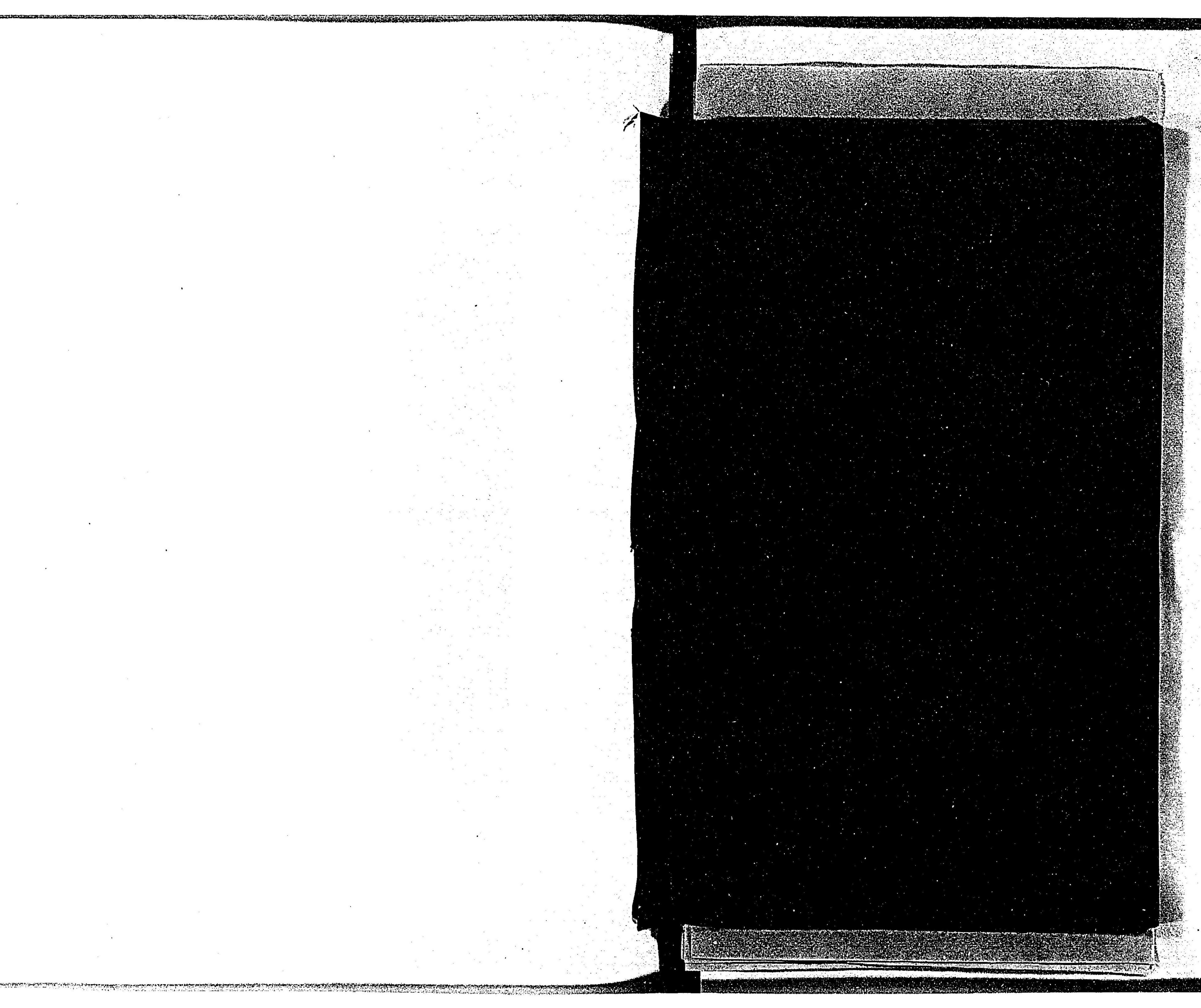
島村利助

同本郷春木町三丁目壹番地

英蘭堂支店

書肆





013557-000-0

7-19

火教大意

林 董/訳

M16

ABA-0019



東泉圖書
一
一
二
冊
大
架
號
七
函
屬